



N-ro 01-473
Januaro 2016
(2015年12月発行)

La Organo de ESPERANTO-RONDO en IKEDA
池田エスペラント会 〒563-0021 池田市畑 1-2-16 島谷方 振替 :00930-5-34655

★会費納入をお願いします

世間は景気回復ということでも、富裕層ではない一般人には関係ない話のようで、心苦しいのですが、先月号に振込用紙を入れました。郵便局から振り込みをお願いします。

★2月6日(土)に総会を開きます。

出席されない方は委任状をお願いします。次号に委任状用のハガキを入れます。近況を書いていただくと、ありがたいです。

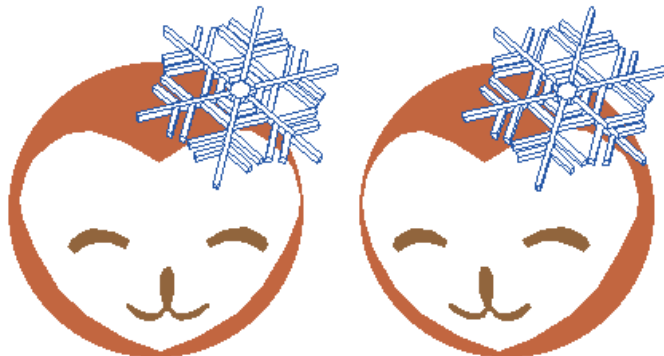
議事は、以下のとおりです。

- 会計決算、活動報告、予算(久保田百合)
- 役員改選 ○活動計画(講習会・月例会・その他)
- ◇委任やご提案は電子メール (simatani@wombat.zaq.ne.jp) もご利用を

★北摂ザメンホフ祭の報告は、2～3ページにあります。

Ĉu vi konas stereogramon?(155)

SIMATANI Takesi



Feliĉan jaron
gardatan de
simio!
猿年が幸多い
年であります
ように。

★北摂ザメンホフ祭 (吹田・豊中・池田合同)

12月6日(日)1時～5時。とよなか国際交流センター(豊中駅南「エトレ豊中」6階)。
会費：500円。

参加14名。池田から4名：岩田好兼、高鶴弘夫、島谷剛、西尾務。豊中5名：佐野寛、近藤ハマ、森山道子、山野敏夫、的場勝英、吹田4名：佐藤守男、大畑賀代子、矢吹あさ糸、松田洋子、宝塚：浅田和子。



出し物：

- Kanto "Ritmu klic klik" (佐野寛)：「ごんべさんの赤ちゃん」とほぼ同じ曲、
- 漢詩 (的場勝英、孟浩然：春暁 (春眠不覚暁)、杜甫：春望 (国破山河在))、
- 佐野報告動画 (山野・佐野)、
- 川崎エスペラント会 (<http://kawasakiesperanto.fc2web.com/>) のエスペラント紹介ビデオ (佐野寛)。

アニメ付き動画が、<https://youtu.be/7LZpOYKw8ho> にあります。

- 図書紹介：『考えるエスペラント文法』、"Aventuroj de Ŝerloko Holmsa"、
"Vivis Vojaĝis Verkis" (盲目の詩人・エロシェンコ 125 周年記念出版)。
- 休憩 (お茶とお菓子)、
- 吹田：リール UK 九条分科会報告など (佐藤守男)、
- 歌「花は咲く」など (浅田和子)。



Mi
manços
vin per
unu
gluto!

池田は、狂言「鬼の養子 Adoptito de Demono」(女: 岩田好兼、鬼: 島谷 剛)。
西尾務さんも彦根から来て、日本語と2種類のエスペラント訳で「雨にもまけず」
を暗唱しました。



Ho, ve!
Ne
mançu
mian
bebon!

<懇親会>

18時から。会費：4000円、「エトレ豊中」4階 魚の巣で12人参加。
再来年、2017年の関西大会を豊中で開催する、という話も、少しだけ出ました。



豊中駅の近く(ダイエーの前)にDIALOGO(ディアローゴ)という名のカフェレストラン(2015年5月開店)があり、豊中の会員が例会の後で訪問したそうです。

店の人はエスペランティストではないそうですが、懇親会で回覧されたパンフレットにも、店名はエスペラントで「対話」の意味、と書いてありました。



N-ro 02-474
Februaro 2016
(2016年1月発行)

La Organo de ESPERANTO-RONDO en IKEDA
池田エスペラント会 〒563-0021 池田市畑 1-2-16 島谷方 振替 :00930-5-34655

★ワンワールド フェスティバル

日時: 2016年2月6日(土)・7日(日) 10:00~17:00

会場: カンテレ扇町スクエア・北区民センター・扇町公園

関西エスペラント連盟も、ブースを借りて展示や物品販売(本やCD)を行います。

★2月6日(土)に総会を開きます。

出席されない方は同封の委任状ハガキを返送してください。近況もできれば。

○会計決算、活動報告、予算 ○役員改選 ○活動計画(講習会・月例会・その他)

◇委任やご提案は電子メール(simatani@wombat.zaq.ne.jp)もご利用を

★2月27日(土)春の季語で俳句

メール参加歓迎。詠んだ句はLa Movadoに投稿します。

★2~3ページに冬の句会の報告と、春の季語。

Ĉu vi konas stereogramon?(155)

SIMATANI Takesi



Tropeolo

キンレンカ

金蓮花

(ナスタチウム、
ノウゼンハレン)

Somera floro. Ĝi
tamen floras ankaŭ
en varma vintro.

春の季語 sezonaj vortoj de printempo

春 分 (printempa) ekvinokso, 彼岸 ekvinoksa semajno/
budhoservo, 清明 Festo de Klaro kaj Brilo, 春風 zefiro, 朧月
pala luno, 春一番 printempa ŝtormo, 苗代 riza vartejo, 逃げ
水・蜃気楼 miraĝo, 流水 flosglacio, 雪崩 lavango, 黄砂 Flava
polvo, 霞 nebulo, 焼野 bruligita kampo, 野焼き / 山焼き fajra
senveprigo, 遠足 ekskurso, 花見 spekti florojn, 東風 (こち)
orienta vento, 残雪 postrestanta neĝo, かざぐるま ventorado,
ぶらんこ trapezo, 風船 balono, 凧 kajto, シャボン玉 sapveziko,
畑打ち plugi/fosi agron, 種蒔き semi (rizon), 接ぎ木 greftaĵo, 挿
し木 stikaĵo, 茶摘み pluki te-foliojn, ひな祭り pupa festo, 卒業
diplomiĝo(大学), 入学 eniri lernejon, 八十八夜 la 88a tago(de
printempa ekvinokso)

動物: 雲雀 alaŭdo, 頬白 emberizo, 燕 hirundo, うぐいす ugviso,
蛙 rano, 蝶 papilio, オタマジャクシ ranido, 蜂 abelo, アサリ
tapo, 蛭汁 supo de korbikoloj, 潮干狩り konkulofosado, 汐ま
ねき violonkrabo, ヤドカリ paguro, ハマグリ meretrikio, ウニ
ekino,

植物: 梅 umefloro, 椿 kamelio, 桜 ĉerizfloro; sakuro,
黄 梅 flava(ora) jasmeno, サンシュユ kornuso, コブシ
kobus-magnolio, レンギョウ forsitio, 沈丁花 dafno, 海棠
kaidomaluso, ライラック lilako, ツツジ azaleo; rododendro,
モクレン magnolio, 藤 visterio, 山吹 kerio, シャクナゲ
rododendro, ヒメシャクナゲ andromedo, 桃の花 persika floro,
木の芽, 若緑, burĝono; ĝermo; plantido, クコ licio, 柳 saliko,
マンサク hamamelido, 春の筍 bambuido, 黄水仙 jonkvilo,
雛菊 lekanteto, キンセンカ kalendulo, 勿忘草 miozoto;
neforgesumino, アネモネ anemono, チューリップ tulipo, ヒア
シンス hiacinto, オキザリス oksalido, シクラメン ciklameno, を
だまき akvilegio, 菜の花 kolza floro, ホウレンソウ spinaco, カ

ラシナ sinapo, 三葉 kriptotenio, スミレ violo, ニンニク ; アサツキ ajlo, 浜防風 pastinako, ワサビ vasabio, ミョウガ miogo, ウマゴヤシ medikago, ゲンゲ astragalo, タンポポ leontodo, つくし ekvizeta sporotigo(spiko), スギナ ekvizeto, 桜草 primolo, 雪割草 epitako, 一輪草 anemono, スイバ okzalo, ワラビ preridio, ゼンマイ osmundo; reĝofiliko, セリ enanto, 野蒜 longstamena ajlo, 山吹 kerio, いぬのふぐり veroniko, 春蘭 japana cimbidio, ワカメ undario, キンポウゲ renunkolo, 一人静 printempa kloranto, 二人静 maja kloranto, ハハコグサ gnafalio, アザミ kardo; cirsio, フキノトウ petazita ŝoso, ヨモギ artemizio, 嫁菜 jomeno, カモジグサ agropiro; hundherbo, ヒジキ hizikio, モツク nemacisto, 海苔 norio, ショウロ rizopogono, レタス laktuko, ミモザ mimozo, 撫子 dianto, パンジー trikoloreto, アスパラガス asparago, わらびもち pasto de preridio, 桜餅 pasto kun sakura folio

2015年11月28日(土)の句会(池田市立中央公民館冬の季語)

La Movado 2月号(1月中旬発行)に、採用されなかった俳句を Apro に掲載します。

○ 岩田好兼 (俳号 : Joŝi):

Kun babilado
spektantoj el teatro.
Neĝflokoj flirtas.

Jarfina nokto —
Afiŝo sur tabulo
deigās preskaŭ.

○ 高鶴弘夫 (俳号 : Gruo):

Sekpersimono
ekfariĝas dolĉa kaj
venas kornikoj

Sekpersimono
kalikon kaj pintŝelon
vere bezonas

○ 島谷剛 (俳号 : Takesi):

Jen niktoreŭto
en griza ĝardeneto —
nigras okuloj

Jarfine estis
bankedo ĉiunokte —
Forpasis tempo

月/日 会場	輪読・会話 <i>Legi, Traduki kaj Babili en Esperanto</i> "La Aventuroj de Ŝerloko Holms'o"	出席者
2015年公民館3階C 12月19日(土)10時	高鶴弘夫、島谷剛、的場祐子。	 3
2016年 1月16日(土)10時	第五話 "La Kvin Oranĝsemoj"、96ページ4行目、 "Kion vi do faros?" から。	 ?

例会予定 2016年1月16日、23日、2月6日(総会)、27日(春の季語で俳句)、 3月5日、(12)、(19)、26日、

4月(2)、9日、16日、(23)、30日B、5月7日、(14)、21日(夏の季語で俳句)、(28)、

6月4日B、11日、(18)、25日、7月(2)、9日、(16)、23日、(30)、

8月6日、(13)、20日(秋の季語で俳句)、(27)、9月(3)、10日、(17)、24日



会場は池田市立中央公民館3階会議室C。第2・第4土曜日10時～12時。
*は会場未定。北・南は池田駅前北会館・南会館。(日付)はお休みです。



行事予定 2016年1月16日(土) KLEG 委員会、 1月26日(火) 中央公民館ふれあい作品展打合、2月6日(総会)、

2月27日(春の季語で俳句)、3月11日(金)～13日(日) 公民館ふれあい作品展、

3月19日(土) KLEG 委員会、

4月16日(土) KLEG 委員会

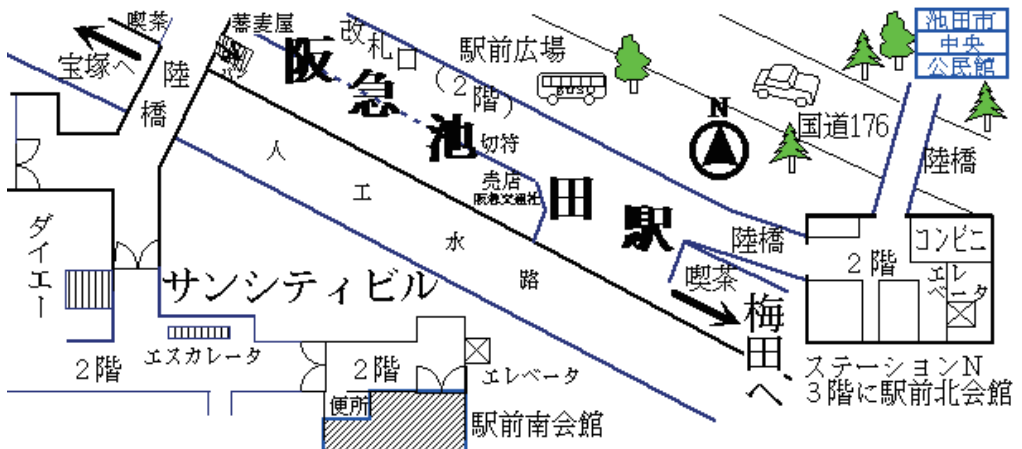
6月18日～19日(土日) 第64回関西エスペラント大会(堺市ビッグアイ)

7月23日～30日(土～土) 第101回世界大会(スロヴァキア・ニトラ)

10月8日(土)～10日(月・祝:体育の日) 第103回日本エスペラント大会(近江八幡市)

11月3日～6日(木～土) アジアエスペラント大会(中国)

2017年7月(土～土) 第102回世界エスペラント大会(韓国・ソウル)





La Organo de ESPERANTO-RONDO en IKEDA

池田エスペラント会 〒563-0021 池田市畑 1-2-16 島谷方 振替:00930-5-34655

2015年決算

収入

会費	66000 円
6千円×10人+3千円×2	準会員青年半額
ザメンホフ祭	763 円
計	66763 円

支出

KLEG 会費	31500 円
3千円×10人+千五百円×1	青年半額
JEI 団体会費	2000 円
会場費*	8300 円
資料代	0 円
講習会	0 円
通信費 (ゆうメールなど)	8916 円
会議費	0 円
計	51716 円

南北会館: 南 900 円×2 + 北 1200 円×1

公民館: 200 円×25 + 300 円×1

《2016年の予定》

- 1月16日 (土) KLEG 委員会、2月6日 (総会)、27日 (春の季語で俳句)、
- 3月19日 (土) KLEG 委員会、4月16日 (土) KLEG 委員会
- 6月18日～19日 (土日) 第64回関西エスペラント大会 (堺市ビッグアイ)
- 7月23日～30日 (土～土) 第102回世界大会 (スロバキア・ニトラ)
- 10月8日 (土)～10日 (月・祝) 第103回日本エスペラント大会 (近江八幡)
- 2017年7月 (土～土) 第102回世界大会 (韓国・ソウル)

《総会委任》田代真弓「3DS (任天堂のゲーム機) のすれちがい通信で見ず知らずの人とやりとりするひとことメッセージを『Saluton!』にしています。意味を調べて興味を持ってくれる人がいるといいなあ…」、西尾務・加藤木みず江「近江での日本大会にぜひ参加を!! 島谷さん西尾が記念品の翻訳に協力しています。会場のボーリズ学園も、このチャンスでないとなかなか見られない所です。」

2016年予算

収入

会費	66000 円
6千円×10人+3千円×2	
本売上げ	1000 円
計	67000 円

支出

KLEG 会費	31500 円
3千円×10人+千五百円×1	
JEI 団体会費	2000 円
会場費	9000 円
資料代	5000 円
講習会	8000 円
通信費 (郵送費など)	10000 円
会議費	1500 円
計	67000 円

池田エスペラント会 2015 年活動報告

2016 年 2 月 6 日総会

<まとめ> 例会の平均出席人数は 3.86 人 (2014 年は 3.85 人)。8 月末から 9 月の 3 回以外は公民館で例会。ほとんど 3 階会議室 C で、料金は減免で 1 回 200 円。

2 月末で大西 肇さんが退会。会員は 13 名 (正会員 12、準会員 1) :

岩田好兼、大川純平 (青年会員)、加藤木みずえ、川越ユリ、久保田百合、高鶴弘夫、島谷剛、田代真弓、田中一喜、西尾 務、松田洋子 (準会員)、的場祐子、吉田ミナ (敬称略。以下同様)。ただし久保田百合はタイの日本人学校勤務で休会。

エスペラント狂言は関西大会で「鈍根草」ザメンホフ祭で「鬼の養子」上演。

田中一喜、久保田百合はタイ在住。田中一喜はタイで講習会・講演などを企画。

公民館ふれあい作品展 (3 月) と池田文化デー (11 月) にパネルを展示した。

機関誌 La Apro は島谷編集で毎月 B5 判 4 ページで発行した。

俳句の会は、2 月 28 日 (土)、5 月 23 日 (土)、8 月 8 日 (土)、11 月 28 日 (土)

春夏秋冬の季語で俳句を詠んだほかに、狂言「鈍根草」「鬼の養子」の練習をした。

KLEG 委員会出席：曾根 KLEG 事務所で土曜日午後 3 時半から 5 時半、島谷。

1 月 17 日、3 月 21 日、4 月 18 日、5 月 17 日 (日) 【豊中公民館 1 時半 KLEG 委員会のち総会】、7 月 18 日、9 月 19 日 (土) 11 月 21 日)。

<例会> 月 2 回～3 回土曜 10 時～12 時、輪読・会話。

公民館 (3 階会議室 C。400 円を減額で 200 円)、池田駅前北会館および南会館。

1 月 17 日、24 日、2 月 14 日、28 日 (春の句会)、3 月 7 日、28 日、4 月 4 日、11 日、25 日、5 月 9 日、16 日、23 日 (夏の句会)、6 月 6 日、13 日、27 日、7 月 11 日、18 日、25 日、8 月 1 日、8 日 (秋の句会)、29 日 (南)、9 月 5 日 (北)、26 日 (南)、10 月 17 日、31 日、11 月 14 日、28 日 (冬の句会)、12 月 5、19 日。

池田駅前南会館：8 月 29 日、9 月 26 日。池田駅前北会館：9 月 5 日。

輪読：2014 年 10 月から継続して “La Aventuroj de Ŝerloko Holmsø”。

回数 29 回。のべ 112 人参加。平均 3.86 人

月	回数	平均	月	回数	平均	月	回数	平均	月	回数	平均
1	2	3.5	4	3	3.7	7	3	3.0	10	2	5.0
2	2	3.5	5	3	3.0	8	3	4.3	11	2	4.0
3	2	4.0	6	3	4.0	9	2	4.0	12	2	3.5

個人別例会出席回数 (敬称略—他の部分も。)

氏名	回数	氏名	回数	氏名	回数	氏名	回数
島谷剛	29	高鶴弘夫	27	佐野寛	3	田中シゲ子	1
岩田好兼	28	的場祐子	23	田中シゲ子	1		

この他に、準備作業や関西エスペラント大会等の行事のみ参加した会員もある。

<主な活動>

2014 年 1 月 17 日 (土) KLEG 委員会 (その後有志で新年会)

1 月 20 日 (火) 公民館ふれあい作品展説明会

2 月 7 日 (土)～8 日 (日) ワンワールドフェスティバル

2 月 14 日 (土) 池田エスペラント会総会 (10 時公民館) 参加：岩田好兼、高鶴弘夫、的場祐子、島谷剛、計 3 名。委任状：大川純平 (関東へ転居予定)、大西肇、田代真弓 (忌野清志郎展をやっている)、娘と初めて手塚治虫記念館に行きました。が、

自由に読める本棚にエスペラント版がなかったのが残念でした)。役員留任：会長 島谷剛、企画岩田好兼、会計久保田百合（島谷代行）、連盟委員島谷剛、田中一喜。予算・決算。活動計画：狂言集（2001年）が107冊残っているので会員に配るなど有効利用する。出版後訳・上演した狂言を追加したPDF版を公開する。

2月28日（土）池田エスペラント会春の句会（駅前北会館 1時半～）

参加：岩田好兼、高鶴弘夫、的場祐子、島谷剛、計4名。

3月13日（金）～15日（日）ふれあい作品展（2階ギャラリー A・B）

3月15日（日）ふれあい作品展（午前岩田好兼、午後島谷剛）

3月21日（土）La Movado 発送当番 +KLEG 委員会（1時～5時半曾根）。

5月23日（土）池田エスペラント会夏の句会（輪読・狂言練習も）

6月20日（土）～21日（日）第63回関西エスペラント大会（京都市国際交流会館：南禅寺の近く。参加269人）池田から実参加7人：岩田好兼、島谷剛、高鶴弘夫、田代真弓、田代みずほ（11歳）、西尾務、的場祐子。不在参加1人：加藤木みずえ。狂言「鈍根草 *Miogo kaj Akvopipro*」主：岩田好兼、太郎冠者：島谷剛。

大会記念品として島谷剛対訳“*Rakontoj antaŭ longa tempo* 今昔物語集（抄）”出版。公開番組で歌手野田淳子さんが歌った歌の一部は島谷剛がエスペラント訳。

7月25日～8月1日（土～土）第100回世界大会（フランス・リール）

8月8日（土）池田エスペラント会例会（10時公民館）秋の季語で俳句。参加：岩田好兼、高鶴弘夫、島谷剛、佐野寛（豊中）、計4名。

8月22日（土）IKEDA 文化 DAY 市民総合文化展 出展者説明会（商工会議所 2F）

9月12日～13日（土日）第47回エスペラント林間学校（京都エスペラント会館）。タイ分科会講師：田中一喜（一時帰国中）。島谷剛：“*Gerda malaperis*” 輪読講師。

10月10日（土）～12日（月・祝）第102回日本エスペラント大会（宮城県仙台）

10月17日（土）La Movado 発送当番。

10月30日（金）IKEDA 文化 DAY 出展作品搬入（商工会議所玄関壁面にパネル6枚）。

10月31日（土）～11月3日（火・祝）IKEDA 文化 DAY。

10月31日（土）池田エスペラント会例会を見学：田中シゲ子さん（88歳）と子息。田中しげ子さんの祖父は、エスペランティスト浅田栄次（1865年生 1914年没）。

11月21日（土）KLEG 委員会。

11月28日（土）冬の季語で俳句の会。岩田好兼、高鶴弘夫、的場祐子、島谷剛、計4名。

12月6日（日）北摂ザメンホフ祭（1時～5時。とよなか国際交流センター会議室 2AB（豊中駅前南「エトレ豊中」6階）。500円。参加14名。池田から4名：岩田好兼、高鶴弘夫、島谷剛、西尾務。豊中5名：佐野寛、近藤ハマ、森山道子、山野敏夫、的場勝英、吹田4名：佐藤守男、大畑賀代子、矢吹あさゑ、松田洋子、宝塚：浅田和子。池田：朗読「雨にも負けず」（西尾）、狂言「鬼の養子 *Adoptito de Demono*」（女：岩田好兼、鬼：島谷剛）

月/日 会場	輪読・会話 <i>Legi, Traduki kaj Babili en Esperanto</i> "La Aventuroj de Ŝerloko Holms'o"	出席者
2016年公民館3階C 1月16日(土)10時	岩田好兼、高鶴弘夫、島谷剛、的場祐子。	 4
1月23日(土)10時	岩田好兼、高鶴弘夫、島谷剛、的場祐子。	 4
2月6日(土)10時	岩田好兼、高鶴弘夫、島谷剛、的場祐子。 2月27日は第六話"La Viro Kun Torditaj Lipoj"103ページ 下から8行目 Ĉi tiu malkovro から。春の句会も。	 4

例会予定

2016年2月6日(総会)、27日(春の季語で俳句)、
3月5日、(12)、(19)、26日、

4月(2)、9日、16日、(23)、30日B、5月7日、(14)、21日(夏の季語で俳句)、(28)、
6月4日B、11日、(18)、25日、7月(2)、9日、(16)、23日、(30)、
8月6日、(13)、20日(秋の季語で俳句)、27、9月(3)、10日、(17)、24日



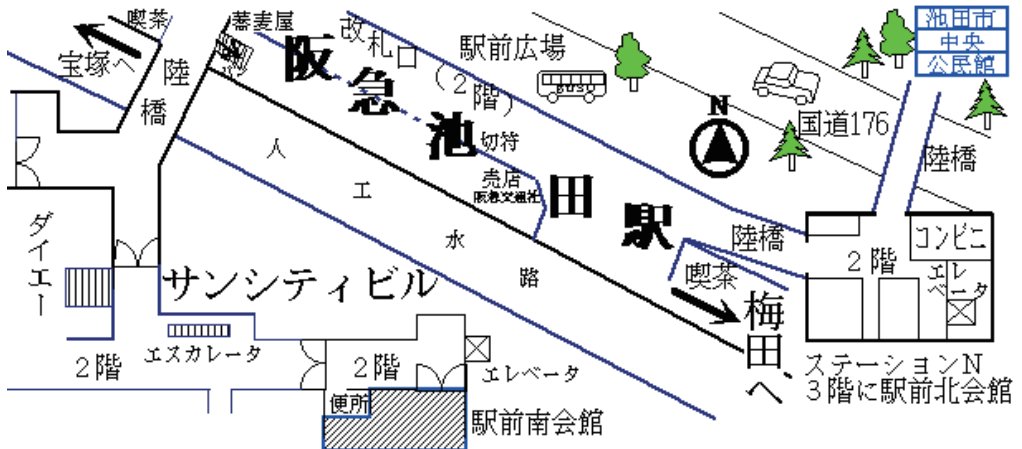
会場は池田市立中央公民館3階会議室C。第2・第4土曜日10時～12時。
*は会場未定。北・南は池田駅前北会館・南会館。(日付)はお休みです。



行事予定

2016年2月6日(総会)、2月27日(春の季語で俳句)、
3月11日(金)～13日(日)公民館ふれあい作品展、

3月19日(土)KLEG委員会、4月16日(土)KLEG委員会
6月18日～19日(土日)第64回関西エスペラント大会(堺市ビッグアイ)
7月23日～30日(土～土)第101回世界大会(スロヴァキア・ニトラ)
10月8日(土)～10日(月・祝:体育の日)第103回日本エスペラント大会(近江八幡市)
11月3日～6日(木～土)アジアエスペラント大会(中国)
2017年7月(土～土)第102回世界エスペラント大会(韓国・ソウル)





N-ro 04-476
 aprilo 2016
 (2016年3月発行)



La Organo de ESPERANTO-RONDO en IKEDA
 池田エスペラント会 〒563-0021 池田市畑 1-2-16 島谷方 振替:00930-5-34655

★第64回関西エスペラント大会

日時: 2016年6月18日(土)・19日(日)

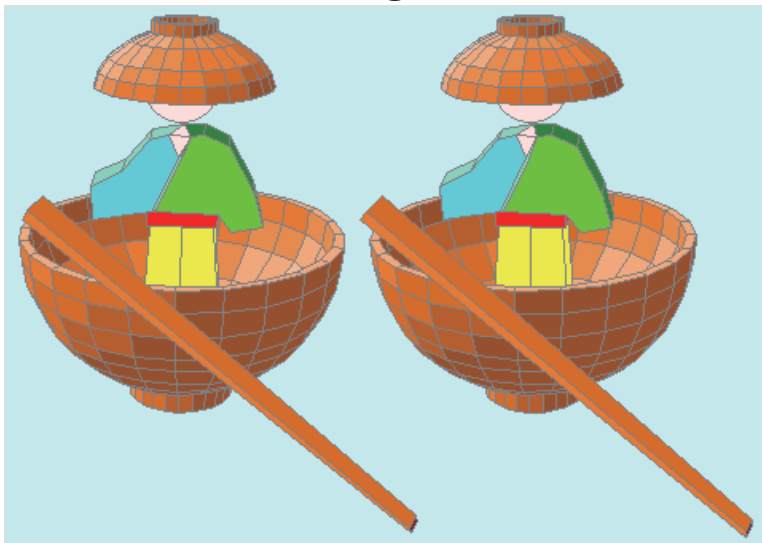
会場: ビッグ・アイ(国際障害者交流センター) 堺市

★各地のエスペラント大会

- | | |
|------------------------------------|----------------|
| 5/28(土) ~ 29(日) 第90回九州エスペラント大会 | グランティア大宰府(福岡県) |
| 6/11(土) ~ 12(日) 第65回関東エスペラント大会 | 東京スポーツ文化館研修ルーム |
| 6/18(土) ~ 19(日) 第64回関西エスペラント大会 | 国際障害者交流センター |
| 7/23(土) ~ 30(土) 第101回世界エスペラント大会 | ニトラ(スロバキア) |
| 10/8(土) ~ 10(祝) 第103回日本エスペラント大会 | ヴォーリズ学園(近江八幡市) |
| 11/15(土) ~ 16(日) 第17回中国・四国エスペラント大会 | 愛媛県(会場未定) |

Ĉu vi konas stereogramon?(156)

SIMATANI Takesi



Unucolulo
 iris al Kioto
 laŭ rivero en
 bovlo anstataŭ
 boato kun
 manĝobastono
 anstataŭ remilo

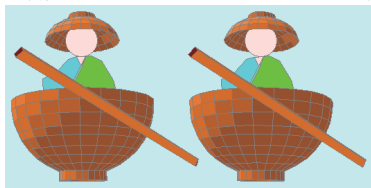
一寸法師は
 お椀を舟に
 箸を櫂に川
 を京都への
 ぼりました

一寸法師 (いっすん) ぼうし)

昔々、ある所に子供のいない、おじいさんとおばあさんがいました。二人は「一寸しかない子供でもいいから子供を恵んでください」と神さまにお願いしました。

するとおばあさんに子供ができました。ところが生まれた子供は本当に身長が一寸しかなかったのです。何年たっても大きくなりませんので、一寸法師と呼ばれるようになりました。

ある日、一寸法師は、家を出て京都へ行きたいと思いました。お椀を舟に、箸を櫂に、針を刀のかわりにして川を下りました。京都で一番立派な家を見つけると、そこで働かせてもらうことにしました。



とはいっても身体が小さいので力仕事はできません。お嬢さまが一寸法師を気に入って、どこへ行くにも連れて行くようになりました。

ある日、外出したお嬢さまを鬼が襲いました。お嬢さまの帯のすきまに隠れていた一寸法師は、ご主人様を助けようとしませんが、たちまち鬼に飲み込まれてしまいました。鬼のおなかの中で一寸法師は所かまわず針で刺しました。鬼はたまた一寸法師を吐き出し、逃げて行きました。

鬼が逃げた後に打出の小槌という宝物が残されていました。お嬢さまが小槌を振ると一寸法師は身体が大きくなり立派な武者になりました。一寸法師はお嬢さまと結婚し、食べ物や財宝も打ち出して、末長く幸せに暮らしたということです。

Unucolulo

rerakontis: SIMATANI Takesi

Antaŭ multaj jaroj ie vivis maljunaj geedzoj. Al ili naskiĝis neniu infano. La maljunuloj petis de Dio, ke Li donu al ili infanon eĉ unucolan.

Baldaŭ la maljunulino gravediĝis kaj naskis infanon. La infano estis vere unucola. Pasis jaroj. Li tamen tute ne grandiĝis kaj oni nomis lin Unucolulo.

Iun tagon Unucolulo volis iri al Kioto. Li malsupreniris laŭ rivero en bovlo anstataŭ boato kun manĝobastono anstataŭ remilo kaj kudrilo anstataŭ glavo. En nobeldomo la plej granda en Kioto li petis laboron.

Tro malgranda li ne povis servi fizike. Li tamen plaĉis al fraŭlino de la nobelo kaj ien ajn akompanis ŝin.

Iun tagon survoje Demono atakis la fraŭlinon. Unucolulo elsaltis el ŝia talia zono por savi sian mastrinon. Demono tuj englutis lin. En la stomako Unucolulo tamen pikadis per la kudrilo. Demono ne povis elteni. Ĝi elsputis lin kaj forkuris.

Post la Demono ili trovis magian trezoron nomatan Elprenna Maleo. La fraŭlino svingis la maleon kaj elprenis iom da staturon por Unucolulo. Li grandiĝis kaj fariĝis bela samulajo. Unucolulo jam granda edziĝis al la fraŭlino. Elprenante ankaŭ frandaĵon kaj trezorojn ili vivis longe en feliĉo.

Knabo Colulo (一寸法師)

muz. TAMURA Torazoo(1873-1943) poez. IWAYA Sazanami(1870-1933); trad. SIMATANI Takesi



Kna - bo Co - lu - lo ol fin - gre - to e - ta es - tas pli.
 Ve - nis Co - lu - lo al Ki - o - to, al la cen - tra zon'.
 Pe - tis ŝi por Co-lu - lo es - tu Ki - jo - mi - za grac'.
 Pi - kis Co - lu - lo en sto - ma - ko, pi - kis al de-mon'.
 5 Post la de - mo - no res - tis la Ma - le - o de El - pren'.



Kvan - kam e - tas kor - po ple - je, des pli am - bi - ci - as li.
 Lin al - pre - nis la mi - nis - tro en la plej im - po - na dom'.
 An - taŭ ŝi a - pe - ris ta - men ve de - mo - no por mi - nac'.
 Pi - kis kaj pi - ka - dis per ping - let' Co - lu - lo sen par - don'.
 9 La tre - zo - ron de ma - gi - o la fraŭ - li - no pe - tis jen!



En bov - le - to kaj manĝ - bas - to - ne - te re - mis li.
 Al prin - ci - no de l' no - be - lo ple - je pla - ĉis li.
 Por ŝin sa - vi sal - tis jen Co - lu - lo al de - mon'.
 La de - mo - no spu - tis for Co - lu - lon pro do - lor'.
 13 Ŝi el - pe - tis i - om da sta - tu - ro por Co - lul'.



Al Ki - o - to, al Ki - o - to re - mis, re - mis li.
 I - un ta - gon Temp - lon Ki - jo - mi - zon i - ris ŝi.
 En la faŭ - kon ĵe - tis sin Co - lu - lo ki - el ŝton'.
 kaj for - ku - ris tro has - te - me al in - fe - ro for.
 Li gran - di - ĝis kaj fa - ri - ĝis al - ta en fi - gur'.

1) 指にたりない一寸法師
 小さいからだに大きな望み
 お椀の舟に箸のかい
 京はるはるのぼりゆく
 2) 京は三条の大臣どのに
 抱えられた一寸法師
 法師法師とお気に入り
 姫のお伴で清水へ
 3) さても帰りの清水寺に
 鬼が一匹現れ出でて
 食ってかかれればその口へ
 法師たちち踊りこむ
 4) 針の刃を逆手もって
 チクリチクリと腹つけば
 鬼は法師を吐きだして
 一生けんめい逃げていく
 5) 鬼が忘れた打ち出の小槌
 打てはふしぎや一寸法師
 ひと打ちことに背がのびて
 今は立派な大男

1) Knabo Colulo ol fingreto eta estas pli.
 Kvankam etas korpo pleje, des pli ambicias li.
 En bovleto kaj manĝbastonete remis li.
 Al Kioto, al Kioto remis, remis li.
 2) Venis Colulo al Kioto, al la centra zon'.
 Lin alprenis la ministro en la plej impona dom'.
 Al princino de l' nobelo pleje plaĉis li.
 Iun tagon Templon Kijomizon iris ŝi.
 3) Petis ŝi por Colulo estu Kijomiza grac'.
 Antaŭ ŝi aperis tamen ve demono por minac'.
 Por ŝin savi saltis jen Colulo al demon'.
 En la faŭkon ĵetis sin Colulo kiel ŝton'.
 4) Pikis Colulo en stomako, pikis al demon'.
 Pikis kaj pikadis per pinglet' Colulo sen pardon'.
 La demono sputis for Colulon pro dolor'
 kaj forkuris tro hasteme al infero for.
 5) Post la demono restis la Maleo de Elpren'.
 La trezoron de magio la fraŭlino petis jen!
 Ŝi elpetis iom da staturon por Colul'.
 Li grandiĝis kaj fariĝis alta en figur'.

月/日 会場	輪読・会話 <i>Legi, Traduki kaj Babili en Esperanto</i> “La Aventuroj de Ŝerloko Holmsa”	出席者
2016年公民館3階C 2月27日(土)10時	春の季語で俳句。 岩田好兼、高鶴弘夫、島谷剛、的場祐子。	 4
3月5日(土)10時	岩田好兼、高鶴弘夫、島谷剛、的場祐子。	 4
3月26日(土)10時	第六話“La Viro Kun Torditaj Lipoj” 108ページ5行目 Do en tiu okazo から。	 ?

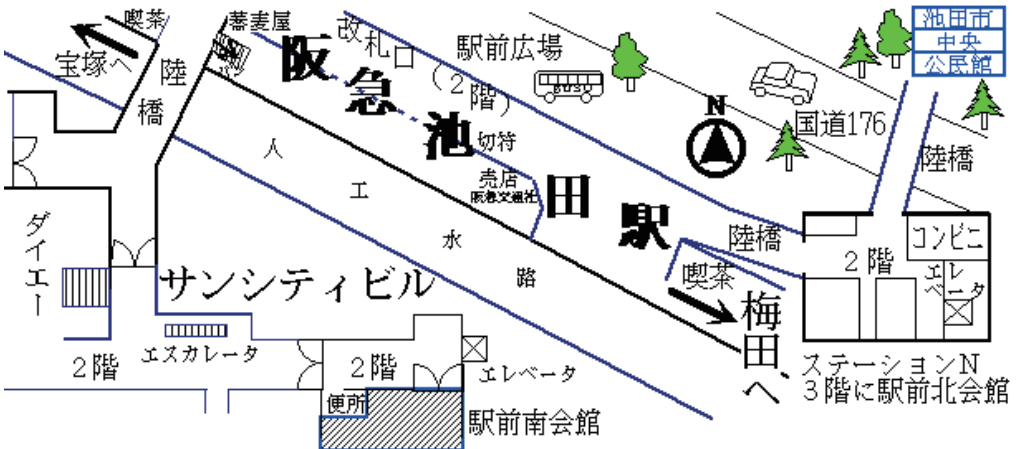
例会予定 2016年3月26日、4月(2)、9日、16日、(23)、30日B、
5月7日、(14)、21日(夏の季語で俳句)、(28)、
6月4日B、11日、(18)、25日、7月(2)、9日、(16)、23日、(30)、
8月6日、(13)、20日(秋の季語で俳句)、27、9月(3)、10日、(17)、24日



会場は池田市立中央公民館3階会議室C。第2・第4土曜日10時～12時。
*は会場未定。北・南は池田駅前北会館・南会館。(日付)はお休みです。



行事予定 2016年3月11日(金)～13日(日) 公民館ふれあい作品展、
3月19日(土) KLEG委員会、4月16日(土) KLEG委員会
6月18日～19日(土日) 第64回関西エスペラント大会(堺市ビッグアイ)
7月23日～30日(土～土) 第101回世界大会(スロヴァキア・ニトラ)
9月10日～11日(土日) 第48回 Friska Lernejo(京都)
10月8日(土)～10日(月・祝: 体育の日) 第103回日本エスペラント大会(近江八幡市)
11月3日～6日(木～土) アジアエスペラント大会(中国)
2017年7月(土～土) 第102回世界エスペラント大会(韓国・ソウル)





N-ro 05-477

majo 2016

(2016年4月発行)

La Organo de ESPERANTO-RONDO en IKEDA

池田エスペラント会 〒563-0021 池田市畑 1-2-16 島谷方 振替 :00930-5-34655

★ 5月21日(土) 夏の季語で俳句の会

メール参加歓迎。詠んだ句は La Movado に投稿します。

2月27日(土)の句会(春の季語) La Movado 5月号掲載以外の俳句です。

○ 岩田好兼 (俳号: Joŝi):

Nudaj piedoj
sur ter' senpavimita.
Ranoj elsaltas

Eksiĝi fine —
Florpetaloj de ĉeriz'
neĝas sinsekv

○ 高鶴弘夫 (俳号: Gruo):

Sakuroj floras —
Nigraj branĉoj kaj trunko
ilin subtenas

Sakuraj floroj —
Mi multe pli admiras
purpuran ŝelon

○ 島谷剛 (俳号: Takesi):

Saltas ugvisoj
de vergeto al branĉo —
Sola dimanĉo

Post longa pluvo
oni semas agraron —
Brilo kaj Klaro

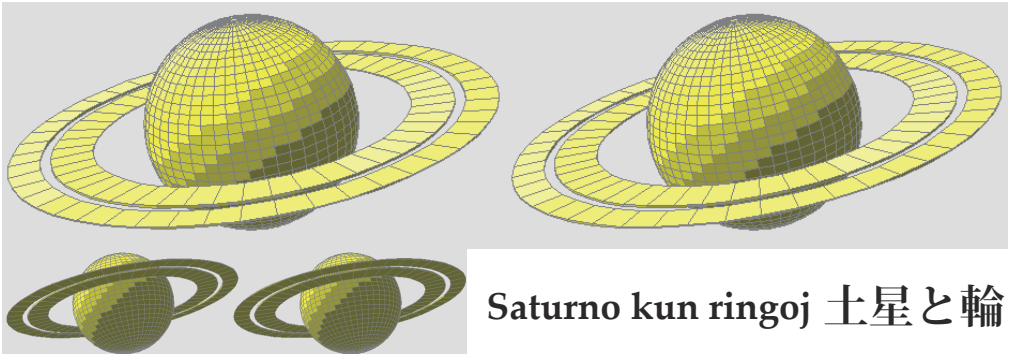
○ 的場祐子 (俳号: Yuko):

Trans bariero
floretoj de vakspruno —
Aromo nobla

Ruĝis tulipoj
en ĝardeno Tonami —
Kuris amikoj

Ĉu vi konas stereogramon?(157)

SIMATANI Takesi



Saturno kun ringoj 土星と輪

夏の季語 sezonaj vortoj de somero

立夏 komenco de somero, メーデー maja tago, 麦の秋 maturas tritiko, 短夜みじかよ mallonga nokto, 梅雨 pluva sezono, 五月雨 maja pluvo, 青嵐 somera ŝtormo, 白夜 blankaj noktoj, 夏至 somera solstico, 雲の峰 (入道雲) kumulonimbuso, 雷 fulmo kaj tondro, 夕立 subita (forta, kaprica) pluvo, pluva duŝo, 虹 ĉielarko, 滝 akvofalo, 涼しい friska, 熱帯夜 tropika nokto, 夕焼け vesperruĝo, 子供の日 tago de knabo, 鯉のぼり ventokarpo, 菖蒲湯 bano kun akorfolioj, 母の日 tago de la patrino, 祭 somera festo, 草笛 sirinkso, ナイター nokta basballudo, 田植え plantado de rizidoj, 青田 rizkampo nematura, 父の日 tago de la patro, 海の家 budo ĉe banejo, ハンモック hamako, キャンプ kampadi, tendumi, 汗 ŝvito, ハンカチ naztuko, poŝtuko, 行水 sinlavo en pelvego, bano en nevarma akvo, シャワー duŝo, 扇風機 ventumilo, 風鈴 ventotintilo, 水遊び ludi apud akvo, 水鉄砲 akvopafililo, 水中花 akvofloro, プール naĝbaseno, 海水浴 marbano, 夏休み somera ferio, libertempo, 線香花火 artofajra bastoneto, 花火 artofajro, 氷河 glaciejo/glaĉero, 泉 / 清水 fonto, 林間学校 libertempa arbara lernejo/somera tendaro, 登山 grimpi monton, 幽霊 fantomo, 川床 friska balkono super rivero, ヨット jakto, 夜店 nokta foiro, 帰省 veni hejmen,

食物: アイスクリーム glaciaĵo, アイスコーヒー glacikafo, 麦茶 infuzaĵo el hordeo, サイダー limonado, トマト tomato, いちご frago, 柏もち moĉio kun faga folio,

動物: 金魚 orfiŝo, カタツムリ heliko, アマガエル hilo, verda rano, ホタル lampiro, メダカ orizio, ハエ muŝo, クモ araneo, アリ formiko, 蚊 kulo, moskito, トカゲ lacerto, 熱帯魚 tropika fiŝo, テントウムシ kokcinelo, 毛虫 raŭpo, セミ cikado, コウモリ vesperto, アオサギ ardeo, クイナ akvoralo / krekso / ralo, ヤモリ geko, ホトトギス eta kukolo, カッコウ kukolo, ヘビ serpento, マムシ vipero, ウ kormorano, フナムシ ligio, カブトムシ kornoskarabo, 夜光虫 noktiluko,

植物: 若葉 juna folio, 青葉 verdaj folioj, 夏草 someraj herboj, 竹の子 bambuido, 牡丹 peonio, カーネーション dianto kariofildianto, ひなげし papaveto, granrozo, バラ rozo, 花菖蒲 japana irido, アジサイ hortensio, スズラン konvalo, サクランボ ĉerizarbo, ヒルガオ kalistegio, サルビア salvio, ヒマワリ helianto, sunfloro, サルスベリ lagerstromo, ユリ lilio, 月見草 enotero, 睡蓮 nimfeo, 蓮 lotuso, 夕顔 lagenario, ラッキョウ ĉina ajlo, 雪の下 saksifrago

Individua psikologio (個人心理学)

el Vikipedio

Per la vorto individua psikologio (germane *Individualpsychologie*) priskribiĝas dinamika koncepto de komprena psikologio, kiu metas la interhomajn rilatojn en la centron.

La individua psikologio estas skolo de da profunda psikologio. Ĝi iniciatiĝis de la aŭstra kuracisto Alfred Adler (アルフレッド・アドラー。1870–1937). Adler krom Sigmund Freud(フロイト) kaj Carl Gustav Jung(ユング) konsideriĝas inter la plej signifaj reprezentantoj de la profunda psikologio. Komence li estis kunlaboranto kaj disĉiplo de Sigmund Freud. Post malkonsentiĝo Adler evoluigis la individuan psikologion kiel memstaran skolon apud la psikoanalizo de Freud.

Dum Sigmund Freud akcentis la demandon pri la plej profundaj kaŭzoj de homa konduko, Adler akcentas la neceson demandi pri la utilo, la funkcio de malsano-simptomoj kaj la homa konduto entute. Adler nomis sian instruon individua psikologio, por akcenti la komprenon pri la unikeco de la individuo, tamen sen subtakso de la "socia faktoro" de la aliaj homoj ĉirkaŭ tiu individuo.

En frua studo pri la neperfekta funkcio de organoj (1907) Adler montris, ke individuo klopodas pli ol kompensi la mankon de neperfekta funkcio de organo — fakte temis pri unu el la plej fruaj esploro pri la pli posta fako psikosomatiko(心身医学). La mankosenton de homa bebo, kiu perceptas sin senhelpa, Adler komprenis kiel fortega pozitiva motivigo por kresko kaj evoluo. Nur postaj negativaj faktoroj en la homa evoluo bremsas tiun motivigon kaj kreas kompleksojn pri malsupereco. La troigita strebo pri graveco kaj potenco por Adler jam estas pli-ol-kompenso de suferiga sento pri malsupereco kaj konsideriĝas simptomo de psika malsano.

La instruo pri individua psikologio estas inspirita fare de demokratiaj idealaĵoj kaj de humanisma socialismo; ĝi ĉiam kompenas la homon kiel "socia vivaĵo". Por Adler ĉiu homo estas integrita en komunumon de aliaj homoj, el kio kaj ekestas defioj pri la viva organizo kaj ankaŭ helpoj pri tiuj defioj. La grado de engaĝiĝo por la komunumo, la maniero kiel li/ŝi solvas la sociajn defiojn pri viva organizo, por Adler estis la ĉefa indikilo pri la grado de psika saneco de la individuo. Timo pri la vivo kaj sento pri malsupereco supereblas nur pere de forta pozitiva interhoma rilato.

月/日 会場	輪読・会話 <i>Legi, Traduki kaj Babili en Esperanto</i> “La Aventuroj de Ŝerloko Holmsó”	出席者
2016年公民館3階C 3月26日(土)10時	高鶴弘夫、島谷剛。	 2
4月9日(土)10時	岩田好兼、島谷剛、的場祐子。	 3
4月16日(土)10時	第六話“La Viro Kun Torditaj Lipoj” 111 ページ 25 行目 En la urbo la plej fruaj elitiĝantoj から。	 ?

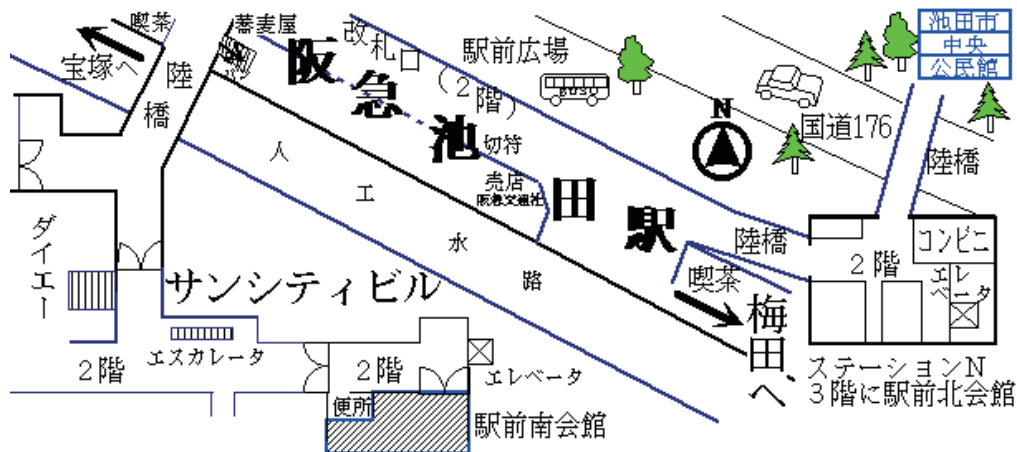
例会予定 2016年4月(2)、9日、16日、(23)、30日B、
5月7日、(14)、21日(夏の季語で俳句)、(28)、
6月4日B、11日、(18)、25日、7月(2)、9日、(16)、23日、(30)、
8月6日、(13)、20日、27日(秋の季語で俳句)、9月(3)、10日、(17)、24日



会場は池田市立中央公民館3階会議室C。第2・第4土曜日10時～12時。
*は会場未定。北・南は池田駅前北会館・南会館。(日付)はお休みです。



行事予定 2016年4月16日(土) KLEG 委員会
6月18日～19日(土日) 第64回関西大会(堺市ビッグアイ)
7月23日～30日(土～土) 第101回世界大会(スロヴァキア・ニトラ)
9月10日～11日(土日) 第48回 Friska Lernejo(京都)
10月8日(土)～10日(月・祝: 体育の日) 第103回日本エスペラント大会(近江八幡市)
11月3日～6日(木～土) アジアエスペラント大会(中国)
2017年7月(土～土) 第102回世界エスペラント大会(韓国・ソウル)





La Organo de ESPERANTO-RONDO en IKEDA
池田エスペラント会 〒563-0021 池田市畑 1-2-16 島谷方 振替 :00930-5-34655

★ 第 64 回関西エスペラント大会 (堺市泉ヶ丘駅前ビッグアイ)

☆6月18日19日(土日)の関西エスペラント大会への行き方をインターネットで調べました:
池田駅 11:05 → 梅田駅 → JR 大阪駅: 環状線閑空快速 11:38
→ 新今宮南海高野線 + 泉北高速和泉中央行
→ 12:15 泉ヶ丘駅 → ビッグアイ (国際障害者交流センター)



- 遠足参加の場合: 池田 7:54 → 梅田 → JR 大阪駅環状線閑空快速 8:28
→ 8:44 JR 天王寺駅 → 9:00 中央口みどりの窓口前集合。
→ 9:24 阪堺電車 → 高須神社前 → 徒歩で鉄砲長屋 → 山口家住宅前見学
(約 30。65 歳以上は無料) → 10:51 綾ノ町 → 阪堺線宿院 → 与謝野晶子生家跡
→ 千利休屋敷跡 → 利晶の杜 (見学希望者 300 円。トイレあり)
→ 南海バス: 宿院 21・23 番 → 南海バス: 堺東駅 → 市役所ロビー自由解散
→ 南海電車泉北線堺東駅 → 泉ヶ丘駅。

Ĉu vi konas stereogramon?(158)

SIMATANI Takesi



poneo ぽねお

Somero en Yatugatake

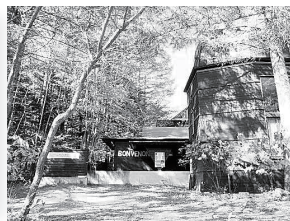
MATOBA YUKO

Survoje al Yatugatake, mi povis rigardi bonan panoramon de la Sudaj Japanaj Alpoj. Trans la fenestro de la aŭto, mi mire povis rigardi belajn blankajn floretojn de fagopiro.

Unue mi vizitis la Muzeon Kitazawa en la urbo Suŭa. Muzeo Kitazawa estas ne tiel vasta kiel la muzeoj en Kioto aŭ Osaka. Sed la enhavo estas tre riĉa kaj ĉarma. Ĝi havas 2 etaĝojn. En la teretaĝo tiam oni montris vitrajn artaĵojn de GARE kaj manlaboraĵoj el vitro pri diinoj. Oni ankaŭ aldonis detalajn klarigojn pere de fakuloj. En la supra etaĝo oni montris bildojn de YAMAGUĈI Kajo k.a.

De Esperanto-Domo en Yatugatake kun s-ro HORI kaj mia patro frumatene promenis. Mi volis vidi florojn de kosmoso. Tial li akompanis nin al ĝardeno de farmdomo. Neatendite mi tiam ankau povis vidi la monton Fujiŝan kun kronnubo. Laŭ li tio

estas rara fenomeno. Kaj ankaŭ li klarigis por ni pri la deveno de “SANBUN NO IĈI JUUSUI”(三分の一湧水).



Tie troviĝas multaj altvaloraj (sed multekostaj?) muzeoj. Mi povis viziti almenaŭ 3 aŭ 4 (Muzeon Ĵoomon, Muzeon Yatugatake kaj Muzeon de HUĴIŜIRO Seiĵi). Mi povis aĉeti treege freŝajn kaj bongustajn altebenaĵajn legomojn (ekz. tomato, fazeoloj kaj pomoj). Krome najbare de la Muzeo Yatugatake la aero tre bongustis.

Revenante hejmen, mi refoje vizitis la Muzeon Kitazawa kaj atendante patron, kiu renkontis sian amikon, mi iomete promenis ĉirkaŭ la lago Suŭa.

Mi fine elkore dankas al mia onklino, MAEKAWA Noriko, kiu estis bona esperantistino kaj postlasis al mi ĉi-tiajn belegajn plezurojn. Dankon!

今は昔の物語 第2巻 19話

阿那律、得天眼語

(あなりつ、てんげんをえたること)

今昔、仏の御弟子に阿那律と申す比丘有り。仏の御父方の従父也。此の人は天眼第一の御弟子也。三千大千世界を見る事、掌を見るが如し。

Antaŭ longa tempo n-ro 19 el vol. 2

Anirudo ekhavis ĉielajn okulojn

tradukis: SIMATANI Takesi

Antaŭ longa tempo inter la disĉiploj de la Budho estis **Anirudo**, patroflanka kuzo de la Budho. Li havis ĉielajn okulojn kaj povis vidi miliardon da mondoj kvazaŭ sian manplaton.

其の時に阿難、仏に白て言さく、
「阿那律前世に何なる業有て、天眼第一なるぞ」と。仏の宣はく、「阿那律、昔過去の九十一劫の時、毘婆尸仏の涅槃後、盗人として身甚だ貧かりしに、宝を納置たる一の塔有り。心の内に思ふ様、

『夜る蜜に此の塔に入て、納置ける宝を盗取て、売て命を継ぎ世を渡らむ』と思ひ得て、夜る弓箭を持て彼の塔に行て、相構て戸を開て入ぬ。見れば、仏の御前に御灯明有り。既に消ぬべし。明かに宝を見て盗むが為に、箭の彡を以て灯明を挑ぐ。時に仏の御形、金色にして塔の内に輝き満たり。然れば、廻り見て返て、仏の御前に居て掌を合せて観ずる様、

『何なる人の宝を投て、仏を造り塔を起るぞ。我れも同じ人也、仏の物を盗取らむや。又此の報を感じて、後の世に貧窮も可増也。』と思て、不取して返ぬ。

其の灯明を挑たる故に、九十一劫の間善処に生れて、遂に我れに値て、出家して果を証して天眼を得たる也」と説給けり。

かゝれば、心を発して仏に灯明を不奉らずと云へども、盗をせむが為に灯明を挑たる功德如此し。況や、心を発して奉りたらむ功德可思遣しとなむ語り伝へたるとや。

※阿那律：釈迦牟尼のいとこ、十大弟子のひとり。天眼(てんげん)第一と称された。

Foje **Anando** demandis la Budhon.

“Kio en lia antaŭa vivo havigis ĉielajn okulojn al **Anirudo**?” La Budho klarigis. “Antaŭ naŭdek unu kalpoj, post nirvano de la Budho Vipaŝjino, **Anirudo** estis ŝtelisto tre malriĉa. Tiam estis pagodo kun trezoroj. Li pensis en sia koro.

« Mi vivtenu min nokte enirinte en la pagodon por ŝteli kaj forvendi trezorojn. » Nokte kun armiloj li iris al la pagodo kaj iel malfermis la pordon. Li trovis jam estingita la kandelon antaŭ Budho. Por ŝteli en hela lumo li eklumigis kaj levis kandelon sur fino de sago. Tiam la statuo de Budho orkolore ekbrilis en la pagodo. Li kunmetis la manojn al la Budho kaj introspektis.

« Kia homo elspezis sian karan trezoron por konstrui la statuon kaj pagodon? Ankaŭ mi estas homo. Kiel mi povus forŝteli de Budho? Pro ŝtelado mia sufero pligrandiĝus en aliaj vivoj. » Tial li reiris sen ŝteli.

Ĉar li levis kandelon, dum naŭdek unu kalpoj li ĉiam naskiĝis en bona familio kaj fine renkontis min por bonziĝi kaj ekhavi ĉielajn okulojn.”

Kvankam ne pro kredo, sed por ŝteli, li eklumis kaj levis kandelon antaŭ Budho kaj gajnis grandan meriton. Se vi eklumos kandelon pro kredo, kiel granda estos la merito. Jen tiel oni rakontis al ni.

※ **Anirudo**: kuzo kaj unu el la Dek Grandaj Disĉiploj de Ŝakjamunio. Oni nomis lin la plej bona devenanto.

月/日 会場	輪読・会話 <i>Legi, Traduki kaj Babili en Esperanto</i> "La Aventuroj de Ŝerloko Holms'o"	出席者
2016年公民館3階C 4月16日(土)10時	岩田好兼、高鶴弘夫、島谷剛、的場祐子。	 4
公民館2階B 4月30日(土)10時	岩田好兼、高鶴弘夫、島谷剛。	 3
5月7日(土)10時	岩田好兼、高鶴弘夫、島谷剛、的場祐子。5月21日は第七話 "La Blua Karbunkolo" 119 ページ下から6行目 "Vi certe ŝercas, Holms'o" から。夏の季語で俳句も。	 4

例会予定

2016年 5月7日、(14)、21日(夏の季語で俳句)、(28)、
6月4日B、11日、(18)、25日、7月(2)、9日、(16)、23日、(30)、

8月6日、(13)、20日、27日(秋の季語で俳句)、9月(3)、10日、(17)、24日



会場は池田市立中央公民館3階会議室C。第2・第4土曜日10時～12時。

*は会場未定。北・南は池田駅前北会館・南会館。(日付)はお休みです。



行事予定

2016年 5月22日(日) KLEG 委員会(総会)

6月18日～19日(土日) 第64回関西大会(堺市ビッグアイ)

7月16日(土) KLEG 委員会

7月23日～30日(土～土) 第101回世界大会(スロヴァキア・ニトラ)

9月10日～11日(土日) 第48回 Friska Lernejo(京都) 17日(土) KLEG 委員会

10月8日(土)～10日(月・祝: 体育の日) 第103回日本エスペラント大会(近江八幡市)

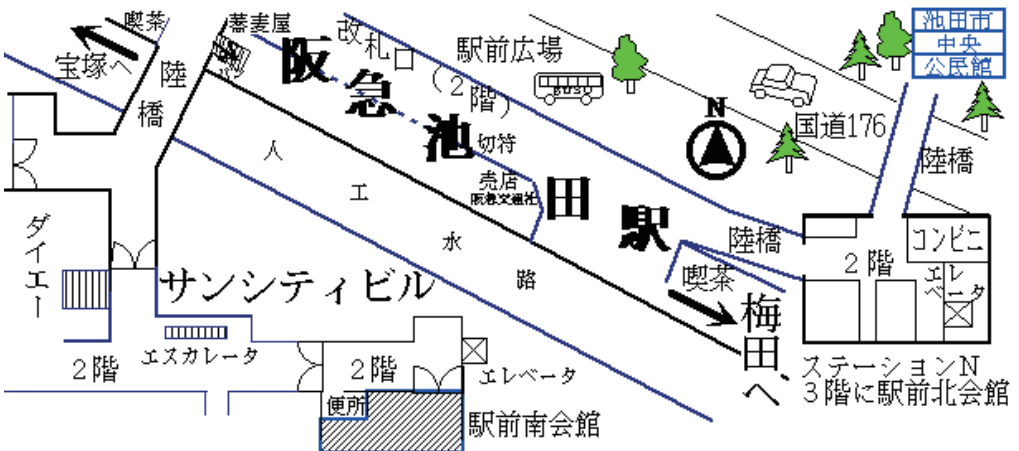
11月3日～6日(木～土) アジアエスペラント大会(中国)

11月19日(土) KLEG 委員会 12月17日(土) LaMovado 発送枚方池田。

2017年 1月21日(土) KLEG 委員会 3月18日(土) KLEG 委員会

4月15日(土) KLEG 委員会

7月(土～土) 第102回世界エスペラント大会(韓国・ソウル)





N-ro 07-479
 julio 2016
 (2016年6月発行)



La Organo de ESPERANTO-RONDO en IKEDA
 池田エスペラント会 〒563-0021 池田市畑 1-2-16 島谷方 振替 :00930-5-34655

★ 第64回関西エスペラント大会で狂言 (2-3頁に新版) 「鬼の養子」



- 6月18日～19日(土日) 堺市ビッグアイ
- ★ 7月23日～30日(土～土) 第101回世界大会(スロヴァキア・ニトラ)
- ★ 9月10日～11日(土日) 第48回 Friska Lernejo(京都エスペラント会館)
- ★ 10月8日(土)～10日(月・祝: 体育の日) 第103回日本エスペラント大会(近江八幡市)
- ★ 11月3日～6日(木～土) アジアエスペラント大会(中国)

★ 秋の季語で俳句の会: 8月27日(土) 10時～12時

秋の季語で俳句を作り、La Movado の「モバード俳句」に投稿します。輪読もしますが、会員外の参加を歓迎します。

Ĉu vi konas stereogramon?(159)

SIMATANI Takesi



Bubo Maĉikane まちかね童子



鬼の養子 (おにの ようし) 新版

続狂言記 巻三の五

登場人物: 鬼、女

Adoptito de Démono

Tradukis Simatani takesi 2015
el "SyokuKyoogenki" la 5a el vol. 3

女「わらはは此当 (このあた) りの者でござる。
山一つあなたに親里 (おやと) がござる。
久しう参らぬ程に、今日此 (この) 子を
抱いて、見舞に参りませふ。(道行) 久々
(びき) 参らぬが、何事もないか、心元
なふござる。やあ、参る程に、こゝは
播磨 (はり) の印南野 (いなの) と申 (まう)
所でござる。此所 (このところ) は『七つ下
がれば鬼が出て人を取 (と) 』と申が、
心元 (こも) なふござる。早 (はや) 日
も晩 (ばん) じてござる。人でも連れて
参らふ物を、心元なふござる。」

シテ鬼「いで食 (く) らはふ〜。」

女「あゝ悲しや、なふ〜、許して被下
(くだ) れ、助けて被下。」

鬼「いで食らはふ〜。やい、そこなや
つ、をのれは七つ下がれば人の通らぬ
所へ失 (う) せた程に、たつた一口に、
いで食らはふ。」

女「あゝ悲しや、助けて被下〜。」

鬼「何と助けてくれ。やあ、見ればよい
女房じや。やい〜、それなら命を助け
てやらふが、をれが言ふことを聞かか。」

女「何成共 (なりとも) 聞 (き) ませふ。」

鬼「それなら、そちを連れて行 (い) て、
をれが女房にせふ程に來い。」

女「夫 (それ) は迷惑でござる。其上 (そのうえ)
私は夫 (おと) がござる。」

鬼「いや〜、男は有 (あ) まい。をれ
が女房にせふ。」

女「成程 (なるほど) 男がござる。夫故 (それゆへ)
此 (この) 子がござる。」

鬼「夫 (それ) でも、女房にせねばならぬ。
どう有 (あ) ても來い。」

女「いや〜、夫 (それ) は無理でござる。」

Virino: Mi estas loĝanto en ĉi tiu loko. Miaj gepatroj vivas trans la monto. Nun mi volas viziti ilin kun la bebo. (iras) Tro longe mi ne vidas ilin. Mi timas, ke io malbona okazis al Panjo kaj Paĉjo... Mi venis al Inamino en Harima. En vespero, oni diras, demono manĝas homon. Jam subiras la suno. Mi devus veni kun aliaj. Mi timas, ke demono aperos...

Démono: Mi formanĝos vin!

V: Ho ve, terure! Pardonu min! Ne manĝu min!

D: Mi formanĝos vin! Hej, virino, vi venis al la loko, kien ne venas homo post vespero. Per unu gluto mi formanĝos vin!

V: Ho ve, terure! Ne manĝu min!

D: Ne manĝu vin? Bela virino vi tamen estas. Mi ne manĝos vin, se vi plenumos mian postulon.

V: Ion ajn mi plenumos!

D: Venu kun mi. Vi estu mia edzino. Tio estas mia postulo.

V: Ho, ve! Tian postulon mi ne povas plenumi! Ĉar mi jam havas edzon.

D: Ne mensogu min. Vi ne havas edzon. Kaj mi estu via edzo.

V: Edzon mi vere havas! Ĉi tiun bebon mi naskis al li.

D: Vi tamen devas esti mia edzino. Veni kun mi vi devas!

V: Ne, neniel! Mi ne estos via edzino!

成(な)ませぬ。」
 鬼「夫(こ)ならたつた一口にしてくれ
 ふぞ。いで食らはふ。」
 女「あゝ悲しや、それならどう成共
 (なとも)致(いた)ませふ。助けて被下。」
 鬼「何と合点(がつん)するか。」
 女「中々、合点でござる。去(さ)なが
 ら此(こ)の子は何としませふ。」
 鬼「其(その)子はをれが養子にせふ。こ
 れへをこせ。」
 女「心得ました。抱かせられ。」
 鬼「扱(さ)も〜よい子じや。よふ見れ
 ばむまそふな。一口にしてやろ、わん。」
 女「あゝ悲しや、其子故にこそ合点もしま
 した。夫ならこちへ其子ををこさしやれ。」
 鬼「夫なら食ふまい。とてもことに此
 子を肩に乗せて、囃子(はし)物で行か
 ぶ程に、そちも囃(は)せ。」

女「心得ました。囃(は)ませふ。」
 鬼「へ鬼の養子を肩に乗せて、蓬萊
 (ほうらい)の島へ参らふ〜、養子を〜
 肩に乗せて、島へ参らふ〜」
 鬼「扱(さ)も〜よふ見れば見る程むまそふ
 な。これは食はねば堪忍がならぬ。一
 口に食ふてやらふ。あゝ、わん。」
 女「なふ〜、悲しや〜、夫(こ)を
 食はして成(な)ものか。をのれが様
 なやつは男には持たぬ。打(う)こか
 してやつたがよい。其子もこちへをこ
 せ。なふ〜恐ろしや、怖(おそ)や〜(逃
 げ入る)」
 鬼「扱(さ)も〜、女じやと思ふて油断して、
 打こかされた。扱(さ)もしなしたり〜。
 やあ、是に笠を置て行た。せめて是成
 共取て行(ゆ)ふ。やい〜、今の女、
 どちへ行(ゆ)ぞ。どうでも女房にせ
 ねばをかぬぞ。やるまいぞ〜〜。」

(終わり)

※印南野：兵庫県南部の台地。

<http://lesperanto.sannasubi.com/> 池田エスペラント会誌 Apro

Lasu min foriri!
 D: Aŭ vi estos mia edzino, aŭ mi
 formanĝos vin per unu gluto!
 V: Ve, ne manĝu min! Ion ajn mi
 plenumos! Ne manĝu min!
 D: Ĉu vi estu mia edzino?
 V: Jes, mi estu via edzino. Kion vi
 faros al la bebo?
 D: La bebo estu mia adoptito. Donu
 ĝin al mi.
 V: Estu tiel. Volu zorgi pri la bebo.
 D: Kiel aminda estas via bebo!
 Cetere... manĝinda. Per unu gluto...
 V: Ne, ne manĝu la bebon! Alie mi ne
 estu via edzino! Redonu ĝin al mi!
 D: Ve, mi ne manĝos ĝin. La bebo
 venu sur mian ŝultron. Ni marŝu
 kun takto-vortoj. Ankaŭ vi
 akompanu taktante.
 V: Tre bone. Mi iros takte.
 D: 🎵 Kun adoptito sur la ŝultroj al
 Insulo de Juneco. Kun adoptito sur
 la ŝultroj al Insulo de Juneco...
 D: Kiel manĝinda estas la bebo!
 Nepre mi manĝu ĝin! Per unu
 gluto mi manĝu ĝin...
 V: Ne, ne manĝu mian bebon!
 Neniam mi estos via edzino! Mi
 batas kaj faligas Demonon! Redonu
 la bebon! Ve, terure, terure! (foriras)

(fino)

※ Inamino: altebenejo en suda parto
 de la gubernio Hyogo.

2016 - julio

- 3 -

月/日 会場	輪読・会話 <i>Legi, Traduki kaj Babili en Esperanto</i> "La Aventuroj de Ŝerloko Holms'o"	出席者
2016年公民館3階C 5月21日(土)10時	岩田好兼、高鶴弘夫、島谷剛。	 3
6月4日(土)10時	岩田好兼、高鶴弘夫、島谷剛、的場祐子。	 4
6月11日(土)10時	岩田好兼、高鶴弘夫、島谷剛、的場祐子。次回6月25日(土)は第七話"La Blua Karbunkolo" 127 ページ 9 行目 "Koler! Vi estus kolera, eble, se から。	 4

例会予定

2016年 6月25日、7月(2)、9日、(16)、23日、(30)、
8月6日、(13)、20日、27日(秋の季語で俳句)、

9月(3)、10日、(17)、24日



会場は池田市立中央公民館3階会議室C。第2・第4土曜日10時～12時。

*は会場未定。北・南は池田駅前北会館・南会館。(日付)はお休みです。



行事予定

2016年 6月18日～19日(土日)第64回関西大会(堺市ビッグアイ)

7月16日(土)KLEG委員会

7月23日～30日(土～土)第101回世界大会(スロヴァキア・ニトラ)

9月10日～11日(土日)第48回 Friska Lernejo(京都) 17日(土) KLEG委員会

10月8日(土)～10日(月・祝: 体育の日)第103回日本エスペラント大会(近江八幡市)

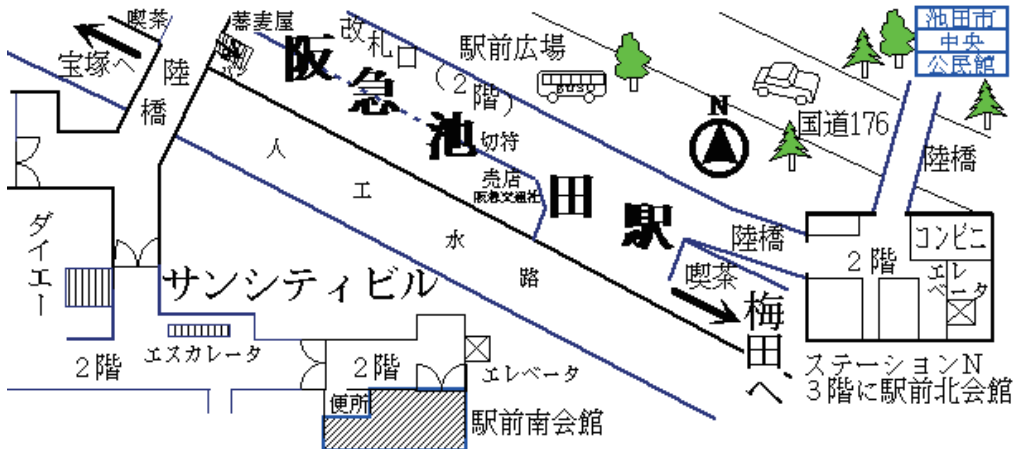
11月3日～6日(木～土)アジアエスペラント大会(中国)

11月19日(土) KLEG委員会 12月17日(土) LaMovado 発送枚方池田。

2017年 1月21日(土) KLEG委員会 3月18日(土) KLEG委員会

4月15日(土) KLEG委員会

7月(土～土)第102回世界エスペラント大会(韓国・ソウル)





La Organo de ESPERANTO-RONDO en IKEDA
池田エスペラント会 〒563-0021 池田市畑 1-2-16 島谷方 振替:00930-5-34655

★秋の季語で俳句の会：8月27日(土) 10時～12時

秋の季語で俳句を作り、La Movado の「モバード俳句」に投稿します。輪読もしますが、会員外の参加を歓迎します。

- ★ 9月10日～11日(土日) 第48回 Friska Lernejo(京都エスペラント会館)
- ★ 10月8日(土)～10日(月・祝:体育の日) 第103回日本エスペラント大会(近江八幡市)
- ★ 11月3日～6日(木～土) アジアエスペラント大会(中国)

2016年5月21日(土)の句会で詠んだ俳句

※夏の季語で詠んだ俳句のうち、La Movado 8月号に掲載されなかった句です。

○ 岩田好兼(俳号: Joŝi):

Fulmas kaj tondras trans lazura markolo. Lumturo muta.
Vesperobskuro — Poleneroj de lili' nazon makulas.

○ 高鶴弘夫(俳号: Gruo):

Ĉar vi deziras, ekfloras magnolio ĉe monumento
Densa purpuro de ĉinaj klematidoj ekscitas venton

○ 島谷剛(俳号: Takesi):

Super akvkampo aplombe sub la nuboj — Ardeo griza
Pluvo subita — Fulmas kaj tondras fore super griza mar'
Nigras fenestro, blankas geko trans vitro — Nokto humida

○ 的場祐子(俳号: Yuko):

Fore muzikas sirinkso okinava — Hejmensopiro.
Diverskoloras freŝaj arbofolioj — Pluvo en majo

※ sirinkso 草笛、Okinavo 沖縄

養由、天現十日時、射落九日語

(やういう、てんにとをのひげんじたるとき、
ここのつのひをいおとせること)

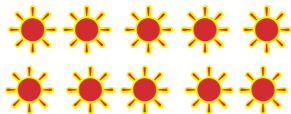
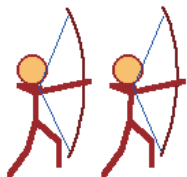
今昔、震旦の□□代に養由と云ふ人有
けり。心極て猛くして、弓射る事、射と
射る者掌を指すが如とし。然れば、国王、
この養由を武芸の道に被仕るるに、毎事
に不愚ず。此に依て、国挙て養由に随ふ。

而る間、天に日十出たり。一して照ら
すそら、雨不降れば猶し早也。何に況や、
日十出で、照すに、草木可堪きに非ず。
皆枯れ失ぬ。此れに依て、国王より始め
て大臣・百官及び民、皆歎き悲むこと無
限し。

其の時、養由、心に思はく、「天に日
一出る、此れ人の業力に依て有る事也。
而るに今、十の日俄に出たり。九つの日
は、必ず此れ、国の為に怪を致せるなら
む」と思て、養由、弓を取て箭を矯て、
天に向て日を射るに、九の日を射落した
り。本の一の日は、天に在して照らす事、
本の如し。其の時に、養由が為に射落る、
所の九の日をば、国の怪也と云事を知ぬ。
然れば、皆人養由を讃め感ずる事無限し。

此れを思ふに、心猛き人の為には、変
化の者も顕る、事也とぞ人云けるとなむ
語り伝たるとや。

※**養由** (養由基): 春秋時代の楚の人。弓
の名手。



Antaŭ longa tempo n-ro 16 el vol. 10
Kiam dek sunoj aperis en la ĉielo,

Jangjou pafe faligis naŭ el ili.

tradukis: SIMATANI Takesi

Antaŭ longa tempo en Ĉinio dum
la jaroj de XX vivis viro nomata
Jangjou. Tre brava kaj lerta en
arkopafado li neniam maltrafis
la celon. La reĝo prenis lin kiel
militiston. Li pruvis sin sperta je ĉio
kaj la tuta lando sekvis lin.

Foje en la ĉielo aperis dek sunoj.
Eĉ unu suno sekigas en malpluvo.
Kiam brilis dek sunoj, des pli suferis
verdaĵoj, kiuj ĉiuj velkiĝis. Pro tio
multe lamentis la reĝo kun ministroj,
burokrataro kaj la tuta popolo.

Jangjou pensis en la koro. “Unu
suno estiĝas dank'al homa beno.
Dek sunoj devas esti pro malbeno
kontraŭ nia lando.” Li prenis arkon
kaj per la sago celis al la ĉielo. Pafe
li faligis naŭ sunojn. En la ĉielo
restis nur unu suno natura. Tiel
li malkovris naŭ faligitajn sunojn
kimeroj sorĉantaj kontraŭ la lando.
Oni do multe laŭdis lin.

La afero montras, ke bravulo
povas eĉ malkovri sorĉantajn
kimerojn. Jen tiel oni rakontis al ni.

※ **Jangjou**: Virtuozo de arkopafado
dum la periodo Primtempo kaj
Aŭtuno en la reĝolando *Chu* (Ĉu, ~
223 a. K.).

秋の季語 **sezonaj vortoj de aŭtuno**

立秋 la unua tago de aŭtuno, 処暑 fino de varmeo, 八月 / 葉月 / 仲秋 aŭgusto, 白露 / 寒露 malvarma roso, 秋分 aŭtuna ekvinokso, 九月 / 長月 septembro, 霜降 prujno, 十月 oktobro, 稻刈時 rizrikolto, 殘暑 varmo de malfrua somero, 新涼 / 爽やか / 冷やか friskas aŭtuno, 霧 nebulo, 朝寒 matene malvarmas, 夜長 longas nokto, 月 luno, 三日月 lunarko, 満月 / 名月 plenluno 星月夜 luno kaj steloj, 秋の星 aŭtunaj steloj, 天の川 Ĉiela Rivero / Lakta Vojo / Galaksio, 流星 meteoro 彼岸 ekvinoksa budhoservo, 罫雲 ciruskumuliso, 野分 furioza ventego, tajfuno 秋時雨 malvarmeta pluveto, 秋の雷 tondro, 稻妻 fulmo, 運動会 sporta festivalo, 夜学 vespera lernejo, 案山子 birdotimigilo, 脱穀 draŝado / dis-grajnigo, 夜なべ labori vespere, 新牛蒡 nova lapo, 盆踊 ulambana danco, 相撲 sumoo, 菊人形 krizantemumita figuro, 原爆忌 (長崎) Tago de Atom-bombo, 敗戦日 ~ de Kapitulaco, 震災忌 ~ de Tokia Tertremo, 敬老の日 ~ de Maljunuloj, 体育の日 ~ de Sporto, 文化の日 ~ de Kulturo, 赤い羽根 ruĝa plumo, 七夕 Stela Festo, 中元 jarmeza donaco, 秋祭 aŭtuna festo, 盂蘭盆会 ulambano, 茄子の馬 solana ĉevalo, 送火 fajro por reirantaj animoj, 墓参 viziti tombon, 燈籠流し flosigi lanternon, 燈籠 lanterno, 大文字 torĉegoj en formo de "Grando", 芋煮会 manĝi kolokasion,

動物: 鹿 cervo, 猪 apro, 渡り鳥 migrobirdo, 燕帰る forflugas paseroj, 鴝 (もず) lanio, 鶇 (ひよどり) hipsipeto, セキレイ motacilo, ウズラ koturno, キツツキ pego, 雁渡る alflugas sovaĝanseroj, ボラ mugilo, ハゼ gobio, 秋鯖 skombro, 鰯 sardino, 秋刀魚 sairo, 鮭 salmo, つくつく法師 cukcukikado, とんぼ libelo, 赤蜻蛉 (あかとんぼ) ruĝa libelo, 鈴虫 homeogrilo, きりぎりす ĉirpo-lokusto, ぼった arkido/lokusto, 蝗 (いなご) rizlokusto/rizarkido, 蟬 (かまきり) manto, コオロギ grilo, 蓑虫 saklarvo,



植物: 金木犀 oranĝflava osmanto, 芙蓉 ĉina hibisko, 桃 persiko, 梨 piro, 柿 persimono, 林檎 pomo, 葡萄 vinbero, 栗 kaŝtano, 石榴 granato, 無花果 figo, 胡桃 juglando, 酢橘 sudaĉo, 柚子 vinagrocitrono, 檸檬 limono, citrono, 紅葉 ruĝaj folioj (de acero), 黄葉 flavaj folioj, 団栗 glano, 銀杏 (実) ginko, 鶏頭 celozio/amaranto, 秋桜 (コスモス) kosmoso, 白粉花 (オシロイバナ) niktafo, へちま lufo, 鬼灯 (ホオズキ) alkekengo, fizalido, 鳳仙花 balzamino/netuŝumino, サフラン safrano, 菊 krizamtemo, 西瓜 akvomelono, 南瓜 kukurbo, 唐辛子 kapsiko, 稲穂 rizspiko, 玉蜀黍 maizo, 落花生 arakido, 秋の七草 sep aŭtunaj herboj, 萩 lespedezo, 薄 (すすき) miskanto, 萱 (かや) torejo, 萩 arĝenta miskanto, 数珠玉 kojksio, 葛 (クズ) puerario, ホップ lupolo, 撫子 dianto, 猫じゃらし / エノコログサ verda setario, 曼珠沙華 / 彼岸花 radia likorido, 桔梗 platikodono, 女郎花 (おみなえし) patrinio, 竜胆 (りんどう) genciano, 露草 komelino, 茸 fungo, 松茸 macutako, 椎茸 ŝitako, 朝顔 farbito, 苦瓜 (ゴーヤー) momordiko, オクラ gombo, フヨウ・ムクゲ hibisko, 濁り酒 kruda sakeo, 新米 nova rizo, 枝豆 antaŭmatura sojfabo, とろろ汁 raspita ignamo, 新豆腐 nova tohuo

月/日 会場	輪読・会話 <i>Legi, Traduki kaj Babili en Esperanto</i> "La Aventuroj de Ŝerloko Holms'o"	出席者
2016年公民館3階C 6月25日(土)10時	高鶴弘夫、島谷剛、的場祐子。	☁ 3
7月9日(土)10時	岩田好兼、高鶴弘夫、島谷剛、的場祐子。	☂ 4
7月23日(土)10時	第七話 "La Blua Karbunkolo" 133 ページ 7 行目 Li ekploris konvulsie から。次の次は 8月6日(土)です。	🏆 ?

例会予定 2016年 7月23日、(30)、8月6日、(13)、20日、27日(秋俳句)、
9月(3)、10日、(17)、24日。

公民館後期申請中: 10月(1)、(8JEK)、15日、(22)、29日、11月(5)、12日、(19)、26日、
12月3日、11日(日曜午後ザメンホフ祭)、17日、(24)、(31)。

2017年 1月(7)、14日、(21)、28日、2月4日、(11)、18日、25日、(5)、
3月4日、(11)、(18)、25日。

 会場は池田市立中央公民館3階会議室C。第2・第4土曜日10時～12時。
*は会場未定。北・南は池田駅前北会館・南会館。(日付)はお休みです。 

行事予定 2016年 7月16日(土) KLEG 委員会
7月23日～30日(土～土) 第101回世界大会(スロヴァキア・ニトラ)

9月10日～11日(土日) 第48回林間学校 17日(土) KLEG 委員会

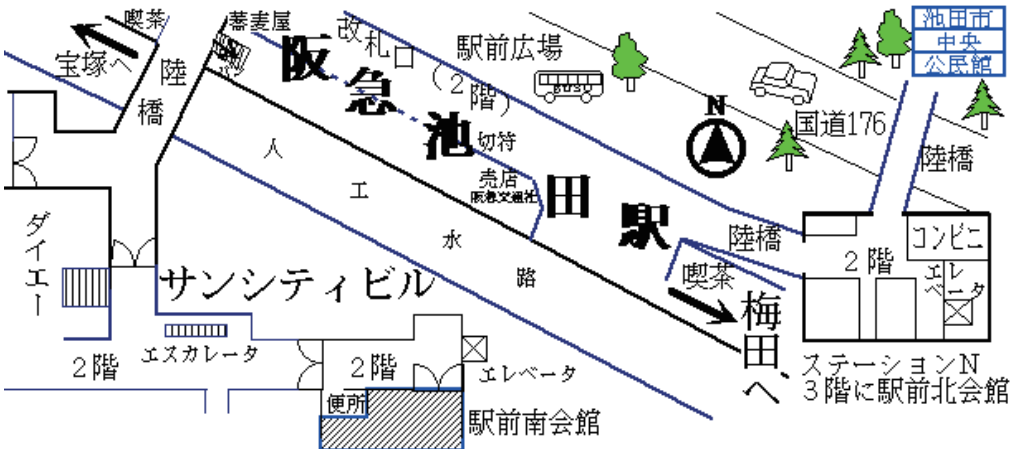
10月8日(土)～10日(月・祝: 体育の日) 第103回日本エスペラント大会(近江八幡市)

11月3日～6日(木～土) アジアエスペラント大会(中国)

11月19日(土) KLEG 委員会 12月17日(土) LaMovado 発送枚方池田。

2017年 1月21日(土) KLEG 委員会 3月18日(土) KLEG 委員会 4月15日(土)

KLEG 委員会、7月(土～土) 第102回世界エスペラント大会(韓国・ソウル)





N-ro 09-481
septembro 2016
(2016年8月発行)

La Organo de ESPERANTO-RONDO en IKEDA
池田エスペラント会 〒563-0021 池田市畑 1-2-16 島谷方 振替 :00930-5-34655

★秋の季語で俳句の会：8月27日(土) 10時～12時

秋の季語で俳句を作り、La Movado の「モバード俳句」に投稿します。輪読もしますが、会員外の参加を歓迎します。

★10月8日(土)～10日(月・祝・体育の日) 第103回日本エスペラント大会(近江八幡市)

★11月3日～6日(木～土) アジアエスペラント大会(中国)

★9月10日13時～11日15時半(土日) 第48回エスペラント林間学校
エスペラント会館(京都)。申込：8月末までに関西エスペラント連盟へ。

<http://kleg.jp/jap/FL48.htm>

【クラス】

朗読講座：松田洋子。教材“Vespera gruo”(木下順二、300円+送料80円)。

実用作文教室：相川節子。

中級会話教室：Atilio Orellana Rojas。講師から：Bonvolu alporti foton pri via plej ŝatata mango kaj ĝian recepton.

【分科会】

○私の国：アルゼンチンの伝統と文化(講師：Atilio Orellana Rojas)

○略称 あなエス。世話役：木元靖浩。

○バンコクのエスペランティストとスカイプで話す会(バンコク側世話役：田中一喜)

Ĉu vi konas stereogramon?(160)

SIMATANI Takesi



朝顔 farbitoj



亀、鶴の教へを信ぜずして 地に落ち甲を破れる語

(かめ、つるのをしへをしんぜずして
ちにおちこふをやぶれること)

今は昔、天竺に世間早臈(かん)して天下に水絶へて、青き草葉も無き時有りけり。其の時に一(ひと)の池有り。その池に一の亀住む。池の水旱(ひで)失せて、其の亀死ぬ可(べ)し。

其の時に一の鶴の、此の池に來りて喰ふ。亀出(いで)來りて、鶴に値(あ)ひて相語ひて云く「汝と我れと前世の契(ちぎ)有りて鶴亀と一雙(いつう)に名を得たりと、仏説き給へり。経教にも万(よろ)の物の譬(たと)には鶴亀を以て譬へたり。而るに天下に早臈して、此の池の水失せて我が命ち絶ゆ可し。汝ち我を助けよ」と。

鶴答へて云く、「汝が云ふ所二つ無し。我れ理(ことわり)を存ぜり。実(まこと)に汝が命、明日に過(す)ぐ不可(べから)ず、極めて哀れに思ふ。我れは天下を高くも下(ひ)くも飛び翔る事、心に任せたり。春は天下の草木の花葉、色々にして目出たきを見る。夏は農業の種種(くさく)に生(お)ひ榮えて様々なるを見る。秋は山々の荒野の紅葉の妙(た)なるを見る。冬は霜雪の寒水、山川・江河に水凍りて鏡の如くなるを見る。如此(かごと)く四季に随ひて、何者か妙に目出たからざる物は有る。乃至(ない)極楽界の七宝の池の自然(じん)の莊嚴をも我れ皆見みる。汝は只此の小池一が内だに知り難し。汝を見るに実に糸惜(いとほ)し。然れば、汝が不云はざる前(ま)に水の辺(ほと)に将行(い)かむと思ふ。

Ne sekvinte averton de gruo testudo falis teren kaj pereis

tradukis: SIMATANI Takesi

Antaŭ longa tempo en Hindio okazis

sekeco, kiam mankis akvo kaj verdaĵoj. Tiam en iu baseno vivis unu testudo. La baseno sekiĝis kaj li estis mortonta.

Tiam unu gruo alflugis al la baseno por nutri sin. La testudo petis de la gruo: "La Budho diris, ke gruo kaj testudo estas duopo kaj amikoj de la antaŭa vivo. Nun mankas pluvo kaj mi estas mortonta en sekeco. Volu savi min, mi petas."

La gruo konsentis: "Certe ni estas duopo kaj amikoj de antaŭa vivo. Vi ne povus pluvivi ĝis morgaŭ. Tio estus granda ĉagreno por mi. Mi povas flugi kien ajn supren kaj malsupren. En printempo min amuzas floroj de ĉiuj landoj. Somere ĝojigas min kreskantaj verdaĵoj en kultivita kamparo. Aŭtune bele ruĝiĝas folioj en montaroj. Vintre neĝo kaj glacio ornamas la montojn kaj riverojn. En ĉiu sezono mi ĝuas belon de naturo. Eĉ belegan lagon en la Paradizo mi vidis. Sed vi konas nur vian sekiĝontan basenon. Kia mizero! Eĉ sen via peto mi transportu vin al alia akvujo.

但し、我れ汝を背(せな)に負ふにも能(あた)はず、抱かむにも力無し、口に銜(くは)へむにも便り無し。只可為(す)き様は一の木を汝に銜へしめて、我ら二(ふり)して木の本末(もと)を銜へて将行(ゆて)かむと思ふに、汝は本より極めて物痛く云ふ物也。汝ぢ我に問ふ事有り。亦我れも誤りて云ふ事有らば、互に口開きなば、落ちて汝が身命(みよ)は損はれなむ、何(いか)。」と云へば、亀答へて云く、「将行かむと宣はゞ、我れ口を縫ひて更に云ふ事有らじ。世に有る者の、身思はずやは有る」鶴の、「付きぬる痾(やま)は失せぬ物也。汝ぢ猶信ぜじ」と。亀の云く「猶更に云はじ。猶将行け」と云へば、鶴二して亀に木を令銜へしめて、鶴二して木の本末を銜へて高く飛び行く時に、亀池の一が内に習ひて、未だ見も習はぬ所の山・川・谿(たに)・峰の色々に目出(めで)きを見て、極めて感に堪へずして、「爰(こゝ)は何(なん)ぞ」と云ふ。鶴も亦忘れて、「此(こゝ)や」と云ふ程に口開きにければ、亀落ちて身命を失ひてけり。




此(こゝ)に依りて、物痛く云ひ習ひぬる物は、身命をも顧りみざる也。仏の「守口摂意(しゅくしやくい)身莫犯(しんぼくはん)」等の文は、此れを説き給ふなるべし。亦、世の人「不信の亀は甲破る」と云ふは、此の事を云ふとぞ語り伝へたとや。

※第5巻24話 亀不信鶴教落地破甲語
※颯：颰 (はつ、こがらし)
※仏説き給へり：鶴亀を一双に扱うのは
仏教ではなく中国(および日本)の伝統。
※ゝ：二の字点；ゆすり点。

"Mi tamen ne havas manojn. Cetera miaj piedoj ne povus firme teni vin. Nek miaj bekoj estas fortaj. Mi havas ideon: Via buŝo tenu unu finon de bastoneto. La alian finon tenu miaj bekoj. Tiel mi transportu vin. Vi tamen estas babilema. Kiam vi demandos ion kaj mi respondos, tiam vi falos kaj pereos. Ĉu vi komprenas?" La testudo konsentis: "Sekvi vian averton mi ĵuras, se vi elsavos min. Vivo estas la plej kara por ĉiu en la mondo." "Mi ankoraŭ timas, ĉar babilemo estas via naturo." "Ne timu, sed tuj transportu min, mi petas!" Tiel la testudo kaj la gruo tenis finojn de bastoneto kaj ekflugis alte en aero. La testudo neniam vidis ekster la basenon kaj tro mirinda por li estis la pejzaĝo de montoj, riveroj kaj profundaj valoj antaŭ altaj krestoj. En granda emocio la testudo demandis. "Kie estas ĉi tie?" La gruo ankaŭ forgesema respondis. "Ĉi tie estas..." Kaj tiel falis kaj pereis la testudo.

Babilemulo tiel perdas sian vivon. La Budho avertas: Ne babilu kaj gardu vin. Oni diras: Testudo rompante ĵuron kaj sian ŝelon. Jen tiel oni rakontis al ni.

※ **La Budho diris:** Duopigo de testudo kaj gruo ne venas el budhismo, sed el ĉina kaj sekve japana legendo.

月/日 会場	輪読・会話 <i>Legi, Traduki kaj Babili en Esperanto</i> "La Aventuroj de Ŝerloko Holmsó"	出席者
2016年公民館3階C 7月23日(土)10時	岩田好兼、島谷剛、的場祐子。	 3
8月6日(土)10時	高鶴弘夫、島谷剛、的場祐子。	 3
8月20日(土)10時	第八話 "La Makulita Bendo" (まだらのひも)139頁7行目 "Ĉu vere?" diris Holmsóから。次の次は8月27日(土)です。	 ?

例会予定

2016年 8月6日、(13)、20日、27日(秋の季語で俳句)、
9月(3)、10日、(17)、24日。

公民館後期: 10月(1)、(8)JEK、15日、(22)、29日、11月(5)、12日B、(19)、26日、
12月3日B、11日A(日曜午後ザメンホフ祭)、17日、(24)、(31)。

2017年 1月(7)、14日、(21)、28日、2月4日B、(11)、18日、25日、
3月4日B、(11)、(18)、25日。



会場は池田市立中央公民館3階会議室C。第2・第4土曜日10時～12時。
*は会場未定。北・南は池田駅前北会館・南会館。(日付)はお休みです。



行事予定

2016年 9月10日～11日(土日)第48回林間学校(京都)
17日(土) KLEG 委員会

10月8日(土)～10日(月・祝: 体育の日) 第103回日本エスペラント大会(近江八幡市)

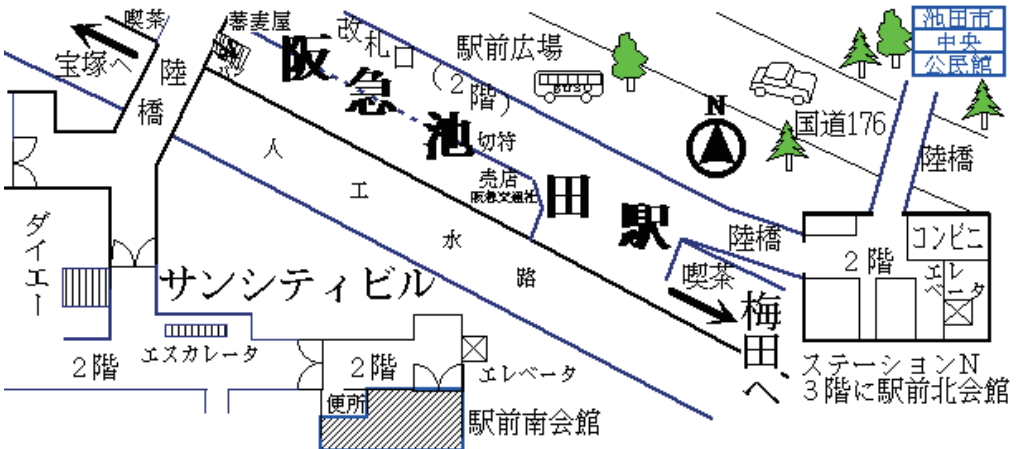
11月3日～6日(木～土) アジアエスペラント大会(中国)

11月19日(土) KLEG 委員会 12月17日(土) LaMovado 発送枚方池田。

2017年 1月21日(土) KLEG 委員会 3月18日(土) KLEG 委員会

4月15日(土) KLEG 委員会

7月22日～29日(土～土) 第102回世界エスペラント大会(韓国・ソウル)





N-ro 10-482
oktobro 2016
(2016年9月発行)

La Organo de ESPERANTO-RONDO en IKEDA

池田エスペラント会 〒563-0021 池田市畑 1-2-16 島谷方 振替 :00930-5-34655

★第 103 回日本大会 (近江八幡) 10月8日(土)～10日(月・祝)

- 学校法人ヴォーリズ学園 (近江兄弟社学園を改称)。参加:285人 (6月20日現在)
- ・スリッパ持参が望ましい。・大会のウェブページ jei.or.jp/evento/2016/jek/
 - ・大会前観光 (水郷巡りなど) は、要申込 (9月末日締切)。Informilo 参照。
 - ・大会記念品『ダイナミックレイク琵琶湖から世界へ』エスペラント版など。

☆ Amika Vespero 8日(土)17:50～池田狂言「竹生島詣」(“Ĉikubu” 台本2～3頁)

主: 岩田好兼 (Iwata Yosikane)、冠者: 島谷剛 (Simatani Takesi)

☆公開番組

- ・鼎談「琵琶湖から世界へ」9日(日)13時半～15時
- ・野田淳子さん・レイクリード (琵琶湖よし笛) コンサート15時10～
- ・エスペラント講演 (カンボジアについて) 9日(日)16時20時～17時50分
- ・「日本をこよなく愛した異国人～ガントレットとヴォーリズの場合～」10日朝

★池田文化 DAY 11月3日～6日(木・祝～日)

10時～16時。池田駅前の商工会議所などで展示。市内で文化探訪ラリー。

池田エスペラント会は、商工会議所2階展示室の入口右にパネル展示します。

Ĉu vi konas stereogramon?(161)

SIMATANI Takesi



**Akvofalo
Minoo
kun turistoj
観光客で
にぎわう
箕面大滝**



Ĉikubu

tradukis SIMATANI Takesi, 2016
el "Kyoogenki Gaigozyuubann" vol. 3.1

Mastro: Mi estas loĝanto en ĉi tiu loko. Mia unusola servisto foriris ien sen mia permeso. Oni diras, ke li revenis hieraŭ nokte. Li ankoraŭ ne venas por peti pardonon. Mi iru al lia domo kaj severe punu lin. Mi iru haste. (iras) Kiel sentaŭga li estas! Li devis peti de mi permeson antaŭ ol foriri. Prave mi koleris kontraŭ li! Ha, mi jam alvenis al lia domo. Se mi vokus per mia voĉo, li ne elvenus. Tial mi imitu ies voĉon. Saluton, hej malfermu la pordon, mi petas! Saluton, sinjoro!

Servisto: Kiu alvenis? Apenaŭ lastan nokton mi estas hejme. Oni jam scias mian revenon. Kiu bonvolis alveni?

M: Saluton, sinjoro!

S: Kiu bonvolis alveni?

M: Hej, sentaŭgulo!

S: Pardonon! (Servisto ĵetas sin teren)

M: Ĝentileco ne konvenas al vi. Ekstaru!

S: Pardonon, Sinjoro!

M: Kial vi foriris ien ne petante mian permeson?

S: Ĉar mi estas unusola servisto, vi ne donus al mi ferion. Tial mi ŝteleliris kaj vizitis la insulon Ĉikubu por kulti la Diinon.

M: Vi kredas, ke por kulti la Diinon unusola servisto rajtas ŝteleliri sen permeso, ĉu ne?

S: Pardonon!

M: Sentaŭgulo!

S: Pardonon!

M: (Al si) Mi koleris kaj venis al la domo

de la servisto por severe puni lin. Li tamen vizitis la insulon Ĉikubu por kulti la Diinon. Pro ŝia graco mi pardonos lin. (Al Servisto) Hej, vi!

S: Pardonon!

M: Por severe puni vin mi alvenis al via domo. Vi tamen vizitis la insulon Ĉikubu por kulti la Diinon. Pro ŝia graco mi pardonas vin. Ekstaru!

S: Ĉu vere vi pardonas min?

M: Jes, vere mi pardonas vin.

S: Kiel feliĉa mi estas! (ekstaras)

M: Ĉu vi vere timis?

S: Eksterordinare vi koleris. Vere mi timis, ke vi punos min per mia vivo. Kiel terura vi estis!

M: Certe mi koleris plej forte. Mi ne indulgos alian neglekton.

S: Plej diligente mi laboros.

M: Cetere mi neniam vizitis la insulon Ĉikubu. Kiel prosperas la sanktejo.

S: La vojo estas plena de adorantoj, kiuj iras supren kaj malsupren. Apenaŭ oni povas marŝi antaŭen.

M: Nature por la sanktejo de la Diino. Ĉu vi vidis ion kuriozan.

S: Nenion kuriozan mi vidis. Cetere mi kredis, ke Pasero kaj Korvo estas birdoj de aliaj specioj. Ili tamen estas filo kaj patro.

M: Kiel vi eksciis tion?

S: Ĉe sankteja vojo staras granda arbo. Sur unu branĉo sidis Pasero. Sur alia branĉo ripozis Korvo. La Pasero pepis al Korvo. "Pep... pep... peaĉj... paĉjo... paĉjo!". Korvo grakis al Pasero. "Kva, kva, kara, kara!". Jen tial ili estas Filo kaj Patro.

M: Absurde vi parolas! Pasero pepas "pep, pep" kaj korvo grakas "kva, kva!". Jen iliaj naturaj pepoj! Nur hazarde ili sidis sur sama arbo. Ĉu

vi ne vidis ion vere kuriozan?
S: Jes, mi vidis ion vere kuriozan.
M: Nepre rakontu tion vere kuriozan.
S: Flanke de la templo estis vasta herbejo. Tie kunsidis amuzaj bestoj.
M: Kiaj bestoj kunsidis?
S: Unua sidis Drako.
M: Ho, Drako de la lago!
S: Dua Hundo.
M: Hundo fidela.
S: Tria Simio.
M: Ho, Simio duonsaĝa.
S: Kvara Rano.
M: Sidis Rano malgranda.
S: La lasta estas Serpento.
M: Serpento estas longa besto.
S: Ili ĉiuj sidis en la herbejo.
M: Hm, mi havas demandon: Oni diras, ke Hundo kaj Simio ne estas amikoj. Ĉu ne okazis kverelo inter ili?
S: Nenia kverelo okazis inter ili. Ĉiuj kunsidis amike kaj diskutis pri io. Fine ili disiris unu post alia kun adiaŭaj salutoj. Iliaj salutoj estis tre amuzaj.
M: Kiel ili salutis?
S: Drako foriris la unua.
♪ Jen salutis Drako:
Vidas mi nun en Biŭako:
Venis gasto en kajako.
M: Bone salutis la Drako!
♪ Vidas mi nun en Biŭako:
Venis gasto en kajako.
S: Tre bone salutis Drako.
M: Kiu sekvis?
S: Hundo foriris la dua.
♪ Jen saluto Hunda:
Estos babilo abunda en nokto profunda.
M: Saluto hunda: babilo abunda en nokto profunda! Amuza saluto! Kiu sekvis?
S: Simio foriris la tria.

♪ Jen saluto de Simio:
Estos kunsido de aŭtonomio pri ekonomia agronomio.
M: Amuze salutis Simio. Ĝi saĝas almenaŭ duonon de homo. Kiu estas la ĉefo de la aŭtonomio?
S: Ĉefo de la aŭtonomio estas Daimio.
M: Kiu sekvis?
S: Rano foriris la kvara.
♪ Salutis rano kiel veteranoj:
Mi elnaĝas kun membranoj.
M: Malgaranda rano salutis kiel veteranoj! Certe ĝi naĝas per membranoj. Tre sprite kaj amuze salutis la bestoj. Kiel salutis la lasta besto.
S: Ho, ĉiu besto jam salutis.
M: Ankoraŭ ne salutis iu besto... Jes, ja! Devas saluti Serpento!
S: Certe salutis Serpento!
M: La plej sprita kaj amuza devas esti la saluto de Serpento!
S: Mi nur papage imitis ies rakonton. Sed, ho ve, mi forgesis la saluton de Serpento. Kion mi povus fari?
M: Hej, Kiel salutis Serpento?
S: Tre amuze salutis Serpento. Ĝi ringigis la korpon kaj levis la kapon. ♪ Jen saluto Serpenta:
Estos babilo abunda en nokto profunda.
M: Jen saluto Serpenta: Estos babilo abunda... Vi eraras! Tio estas saluto de Hundo! Kiel salutis Serpento?
S: Serpento salutis tiel...
M: Kiel?
S: ♪ Serpento serpentume kaŝis sin inter rokojn. (foriras)
M: Ba, sentaŭgulo!
S: ♪ Pardonon!
M: Sentaŭgulo!
S: ♪ Pardonon! (fino)
※ Ĉikubu: Insulo en la lago Biŭako. Pilgrimejo por adorantoj de Sarasvato.

月/日 会場	輪読・会話 <i>Legi, Traduki kaj Babili en Esperanto</i> "La Aventuroj de Ŝerloko Holms'o"	出席者
2016年公民館3階C 8月20日(土)10時	岩田好兼、高鶴弘夫、島谷剛、的場祐子。	 4
8月27日(土)10時	岩田好兼、高鶴弘夫、島谷剛、的場祐子。 秋の季語で俳句。	 4
9月10日(土)10時	岩田好兼、高鶴弘夫、島谷剛、的場祐子。狂言練習。 次回9月24日(土)は第八話"La Makulita Bendo"(まだらのひも)145ページ1行目 Nia kliento de la mateno から。	 4

例会予定 2016年 9月24日、10月(1)、(8)JEK、15日、(22)、29日、
11月(5)、12日B、(19)、26日(冬の季語で俳句)、
12月3日B、11日A(日曜午後ザメンホフ祭)、17日、(24)、(31)。
2017年 1月(7)、14日、(21)、28日、2月4日B、(11)、18日、25日(春の季語で俳句)、
3月4日B、(11)、(18)、25日。

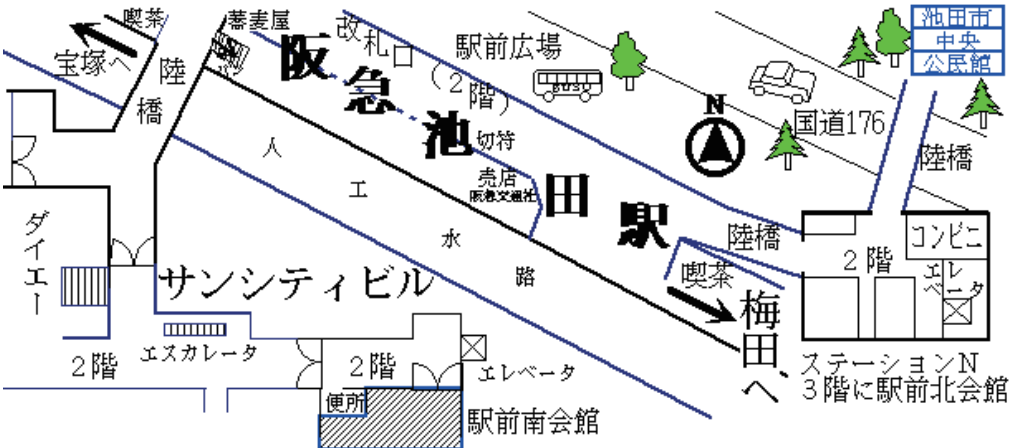


会場は池田市立中央公民館3階会議室C。第2・第4土曜日10時～12時。
*は会場未定。北・南は池田駅前北会館・南会館。(日付)はお休みです。



行事予定 2016年 9月10日～11日(土日)第48回林間学校(京都)
17日(土) KLEG 委員会

10月8日(土)～10日(月・祝:体育の日)第103回日本エスペラント大会(近江八幡市)
11月3日～6日(木・祝～日)池田文化DAY(商工会議所)、アジアエスペラント大会(中国)
11月19日(土) KLEG 委員会 12月17日(土) LaMovado 発送枚方池田。
2017年 1月21日(土) KLEG 委員会 3月18日(土) KLEG 委員会
4月15日(土) KLEG 委員会
7月22日～29日(土～土)第102回世界エスペラント大会(韓国・ソウル)



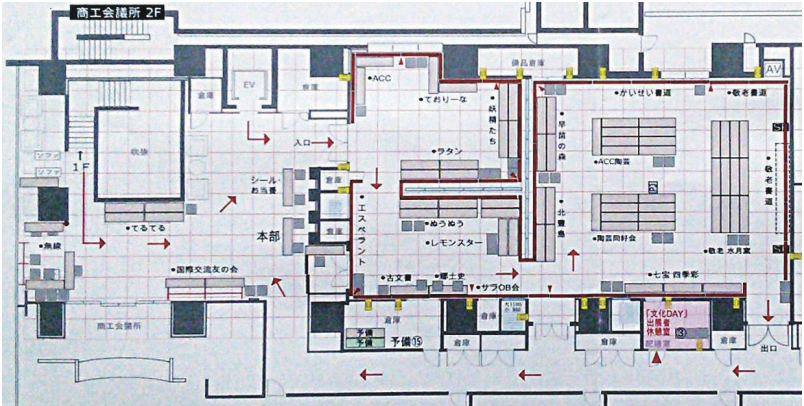


N-ro 11-483
 novembro 2016
 (2016年10月発行)



La Organo de ESPERANTO-RONDO en IKEDA
 池田エスペラント会 〒563-0021 池田市畑 1-2-16 島谷方 振替 :00930-5-34655

★池田文化 DAY 11月3日～6日(木・祝～日)
 10時～16時。池田駅前の商工会議所などで展示。市内で文化探訪ラリー。



エスペラントは
 商工会議所
 2階展示室の
 入口を入れて
 右の壁面に
 パネル展示
 します。

★ザメンホフ祭 12月11日(土)13時公民館2階会議室A

Ĉu vi konas stereogramon?(162)

SIMATANI Takesi



近江八幡水郷

Kanalo en Oomihaciĉman

今は昔の物語 第 5 卷 30 話

天帝釈夫人舎脂音聞仙人語

(てんたいしゃくぶにんしゃしのこえを
ききせんじんのこと)

今は昔、舎脂夫人(しやじふじん)と云ふは、
天帝釈の御妻也。毘摩質多羅(びましら)阿
修羅王の娘也。

仏未だ世に出給はざる前(まへ)に、一
(ひと)の仙人有りけり。名をば提婆那延
(たいばなん)と云ふ。帝釈常に其の仙の所に行きて、
仏法を問ひ習ひ給ふ。

其(その)時に、舎脂夫人心の内に思ふ
様、「帝釈定めて仏法を習ふにしも有ら
じ。此の人必ず他の夫人の有るなめり。」
と思ひて、蜜(みつ)に夫人、帝釈の後ろ
に隠れて尋ね行きて見れば、実(まこと)に
帝尺、仙の前に居給へり。

帝尺、夫人の蜜(みつ)に来れるを見給
て呵嘖して宣はく、「仙の法は女人に見
しめず、亦、聞かしめず。早う還り給ふ
べし」と云ひて、蓮(はぢ)の茎を以て舎
脂夫人を打つ。其の時に、舎脂夫人、あ
まへて帝釋と戯ぶる。

其の時に、仙人、夫人のあてなる音を
聞きて心の穢がれければ、忽(たち)に仙
の通力(りき)失せて凡夫に成りにけり。
然れば、女人は仙の法の為に大きな障
(さ)り也となむ語り伝へたとや。

※今昔物語第 5 卷 30 話天帝釈夫人舎脂
音聞仙人語

※仏法を：正しくは「仙法を」。

Antaŭ longa tempo n-ro 30 el vol. 5

Asketo aŭdis voĉon de Ŝaĉi, la edzino de Indro

tradukis: SIMATANI Takesi

Antaŭ longa tempo en Hindio
vivas Ŝaĉi, la edzino de Indro kaj
filino de la reĝo de asuroj.

Antaŭ ol la iluminiĝo de la Budho,
vivas la asketo nomata Devajano.
Indro foje vizitadis Devajanon por
lerni budhismon.

Ŝaĉi, la edzino ĵaluze supozis,
ke Indro ne lernas budhismon, sed
vizitadas iun konkubinon. Sekrete
ŝi sekvis lin kaj trovis, ke Indro, ŝia
edzo, vere vizitis la asketon kaj sidas
antaŭ li.

Indro trovis ŝin kaj riproĉis.
"Al virino oni ne permesas vidi
aŭ aŭskulti asketon! Hejmen vi
devas reiri!" Li frapetis ŝin per
tigo de lotusfloro. La edzino kajole
amindumis al li.

La asketo aŭdis ĉarman voĉon de
la virino kaj pro allogiĝo al ŝi perdis
magian forton kaj fariĝis kvazaŭ
ordinarulo. Virino estas grava
obstrukco por asketo. Jen tiel oni
rakontis al ni.

※ **Indro**: Unu el la dioj en hinduismo
kaj budhismo.

※ **Asuroj**: Dioj aŭ demonoj en hindu-
ismo kaj budhismo.

★冬の季語で俳句の会

11月26日(土) 10時~12時

会場: 池田市立中央公民館3階会議室C。

冬の季語で俳句を作り、La Movado の「モバード俳句」に投稿します。
輪読もしますが、会員外の参加を歓迎します。

秋の季語の俳句の会の報告

8月27日(土)、池田市立中央公民館 10時~、出席4名。

La Movado 11月号に投稿しました。採用されなかった俳句を La Apro に載せます。

○ 岩田好兼 (俳号: Joši):

Aŭtuna lago — Jaĥtoj, sur kiuj korvoj sentime paŭzas.
Kie troviĝas obskuro sub plenluno? Mallaŭta parol'.

○ 高鶴弘夫 (俳号: Gruo):

plena pasio dispecigante ŝelon eligas nukson
kun dornoj pikaj, solidigante ŝelon, kion vi gardas?

○ 島谷剛 (俳号: Takesi):

Ruĝaj kaj bluaj farbetoj ĉe biciklo — Mateno freŝa
Akrido verda manĝas folion verdan — Pezas pluvnubo

○ 的場祐子 (俳号: Yuko):

Sur salonniĉo ŝanceliĝas balance floroj de kosmos'.
Interparolas sub granda kaŝtanarbo la geamantoj.



月/日 会場	輪読・会話 <i>Legi, Traduki kaj Babili en Esperanto</i> "La Aventuroj de Ŝerloko Holms'o"	出席者
2016年公民館3階C 9月24日(土)10時	高鶴弘夫、島谷剛、的場祐子。	☁ 3
10月8~10日 (土日祝)	第103回日本エスペラント大会(近江八幡ヴォーリス学園)参加418人。池田から西尾務、加藤木みずえ、島谷剛、岩田好兼、的場祐子、高鶴弘夫。不在参加:田代真弓。	☁ 6+1
10月15日(土)10時	第八話"La Makulita Bendo"(まだらのひも)147ページ15行目"Jes, oni faris kelkajn ŝanĝetojn から。	🏆 4

例会予定

2016年 10月(1)、(8)JEK)、15日、(22)、29日、

11月(5)、12日2階会議室B、(19)、26日(冬の季語で俳句の会)、

12月3日B、11日2階会議室A(日曜午後ザメンホフ祭)、17日、(24)、(31)。

2017年 1月(7)、14日、(21)、28日、2月4日B、(11)、18日、25日(春の季語で俳句)、

3月4日B、(11)、(18)、25日。



会場は池田市立中央公民館3階会議室C。第2・第4土曜日10時~12時。

*は会場未定。北・南は池田駅前北会館・南会館。(日付)はお休みです。



行事予定

2016年 10月8日~10日(土日祝)第103回日本大会(近江八幡市)

11月3日~6日(木~日)池田文化DAY。アジア大会(中国)

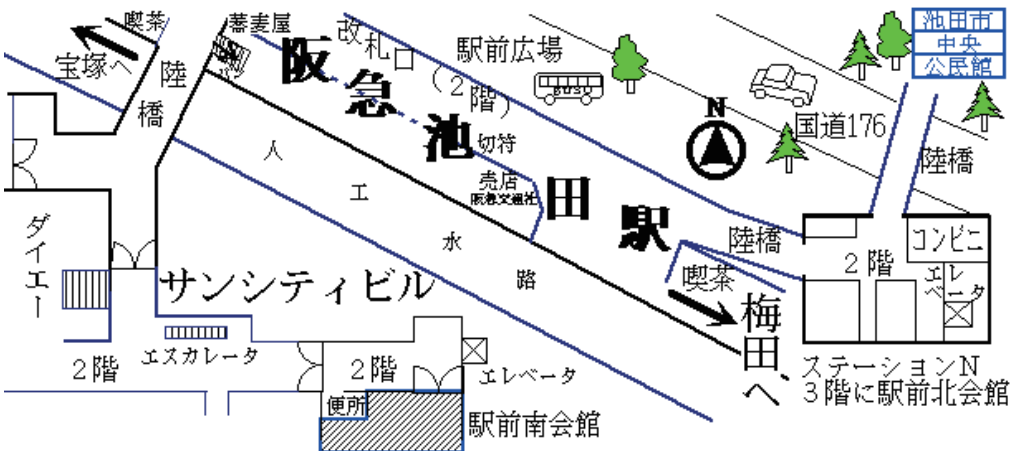
11月19日(土)KLEG委員会。12月11日(土)ザメンホフ祭13時2階会議室A

12月17日(土)LaMovado 発送枚方池田。

2017年 1月21日(土)KLEG委員会 3月18日(土)KLEG委員会

4月15日(土)KLEG委員会

7月22日~29日(土~土)第102回世界エスペラント大会(韓国・ソウル)





N-ro 12-484
decembro 2016
(2016年11月発行)



La Organo de ESPERANTO-RONDO en IKEDA
池田エスペラント会 〒563-0021 池田市畑 1-2-16 島谷方 振替:00930-5-34655

★冬の季語で俳句の会

11月26日(土) 10時~12時

会場: 池田市立中央公民館3階会議室C。

冬の季語で俳句を作り、La Movado の「モバード俳句」に投稿します。会員外の参加を歓迎します。

★北摂ザメンホフ祭 (吹田・豊中・池田合同)

12月11日(日)13時~17時。池田中央公民館2階会議室A (池田駅北東公園内)。
池田は、狂言「仏師 Statu-metiisto」。会費 500 円。忘年会「万惣」で四千円。

冬の季語 sezonaj vortoj de vintro

クリスマス kristonasko、師走 jarfino、大晦日 silvestro、大寒 granda frosto、冬の朝 vintra mateno、短日 mallongas tago、霜夜 prujna / frosta nokto、寒波 frosto、寒月 frosta luno、凧/木枯/北風 frosta vento、霰(あられ) grajlo; hajleto、霽(あられ) neĝpluvo、霜(しも) prujno、雪 neĝo、雪女 neĝulino、吹雪 neĝostormo、雪原 neĝkampo、枯野 morta kampo、冬眠 vintrodormi、枯葉 velkinta /mortinta / falinta folio、枯木~ a arbo、ボーナス kromsalajro、煤払(すす払い) ĝenarala purigo、第九 naŭa simfonio de Beethoveno、忘年会 jarfina bankedo、晦日蕎麦(あられ) jarfina fagopiraĵo、膝掛 genuŝirmilo、セーター ĵerzo、オーバー palto、襟巻 koltuko、手袋 gantoj、餅 moĉio; rizkuko、雪掻 forigi neĝon、ストーブ fajrujo; forno; stovo、スキー skii、スケート glitkuri; sketi、風邪 malvarmumo、日向ぼこ sunumo、年賀状 novjara salutkarto、お年玉 novjara donaco、獅子舞 leonmaska danco、羽子つき japana volanludo/plumpilko、初詣 unua vizito al sanktejo、七五三 festo por tri-、kvin- kaj sepjaraj infanoj、豆撒 demono-ekzorco、鬼は外 For la demonoj!、節分 lasta tago de vintro、コマ turbo、咳(せき) tuso

動物 : 牡蛎 ostro、熊 urso、狸 nikttereŭto、狼 lupo、鼬 mustelo、むささび flugsciuro、兎 leporo; kuniklo、鯨 /勇魚 baleno、鷹 akcipitro、鷹狩 falkoĉaso(falkoはハヤブサ)、鴨 sovaĝa anaso、白鳥 cigno、鮪 tinuso、鰯(いわし) seriolo、鮫鰐 lofio、河豚(ふぐ) tetrodono; balonfiŝo、鯉 rombo; platfiŝo、海鼠 holoturio; markolbaso、

植物 : 葉牡丹 ornama brasiko、白菜 ĉina/pekina brasiko、ブロッコリ brokolo、葱 tubfolia ajlo、大根 rafano、カブラ rapo、人参 karoto、竜の玉 frukto de ofiopogono = drakbarbo(蛇の髯)の実、山茶花 sazanko、蜜柑 mandarina; oranĝo、枇杷の花 floras eribotrio、水仙 narciso、シクラメン ciklameno

Statu-metiisto (仏師)



el "Kyoogenki" vol. 3. 10
tradukis Simatani takesi 2003

Provincano: Mi estas loĝanto de provinco malproksima. Prosperas budhismo kaj mi konstruis oran kapelon kun kennaj flankoj. En ĝi ankoraŭ ne loĝas Budho. Mi iru al Kioto kaj aĉetu statuon... Ha, mi jam atingis la ĉefurbon. Metiiston mi ne konas. Mi voku: Statuon aĉetos, Budhon mi aĉetos!

Metiisto: Mi estas fripono en Kioto. Mi neniam estis diligenta kaj ne povis vivteni min. Tial mi vestis min kiel bonzo. Mi provu ĉiun ajn ŝancon por gajni feliĉon. Jen provincano volas aĉeti budhanan statuon. Mi iru kaj trompu lin. Bonan tagon, Sinjoro! Kion vi krias laŭte en la strato?

Provincano: Mi estas provincano kaj volas aĉeti statuon. Ĉar mi konas neniun metiiston, mi vokas tiel.

Metiisto: Kiel bonŝanca vi estas!

Provincano: Kial mi estas bonŝanca?

Metiisto: Vi volas aĉeti statuon kaj vi estas tre bonŝanca renkonti min ĉi tie.

Provincano: Kial bonŝanca renkonti vin?

Metiisto: Mi ja estas metiisto, kiu faras budhanan statuon.

Provincano: Vere bonŝanca mi estas. Al kiu skolo vi do apartenas?

Metiisto: Estas Skoloj **Unkei**, **Tankei** kaj **Annami**. Mi apartenas al la skolo de **Annami**.

Provincano: Mi ja scias la skolon! Ĉu vi havas statuon jam elfaritan?

Metiisto: Ne, mi ne havas! Sed mi faros laŭ via postulo.

Provincano: Mi komprenis vin. Kian statuon vi proponas?

Metiisto: Antaŭ ĉio diru al mi, kiom granda estas via kapelo?

Provincano: Kvadrato kun kennaj flankoj.

Metiisto: En tiu okazo mi proponu al vi statuon tiel grandan kiel mi.

Provincano: Certe estas deca tia grandeco kiel vi.

Metiisto: Kiun budhon vi volas havi kiel statuon?

Provincano: Kiu estas bona?

Metiisto: Raganon mi faru por vi.

Provincano: Kian aspekton havas tiu budho?

Metiisto: Ĉi tian! (mienas kolera)

Provincano: Ho, ve! Tia terura budho timigos la infanojn! Mi petas fari alian budhon.

Metiisto: Konsentite! Mi faru Manĵusron, kiu gardos vin en vivo kaj postmondo.

Provincano: Ha, tiu bodisatvo tre plaĉis al mi. Kiom mi pagu al vi por la statuo?

Metiisto: Volu pagi dek mil hikiojn.

Provincano: Mi pagos sen marĉando. Kiam ĝi estos preta?

Metiisto: Almenaŭ dek jarojn vi devos atendi.

Provincano: Ne! Tiel longe mi ne povos atendi.

Metiisto: Tiuokaze morgaŭ mi donos al vi la statuon.

Provincano: Kial tiel diferencas la

tempo por fari statuon?
Metiisto: Ho, prava demando. Longe vi devos atendi, se mi sola ĉizos la tuton. Mallonge, se miaj multaj disĉiploj kunlaboros. Unu ĉizos la kapon, la alia faros manojn kaj la tria pretigos plisojn de la robo. Ĉiujn mi kungluos kaj vi havos statuon.

Provincano: Mi bone komprenis vin. Kie estas via loĝejo?

Metiisto: Certe vi ne konas la lokon. Volu veni al la dorsa kapelo de *Inaba*.

Provincano: Tie mi ricevos la statuon. Ĝis la revido!

Metiisto: Morgaŭ ni revidos!

Provincano: Konsentite!

Metiisto: Mi sukcesis gajni mendon de statuo. Mi tamen neniam ĉizis eĉ dentopikilon. Kiel mi faru? Ha, mi havas bonan ideon! Mi iru kun masko de budho. Post la pago mi kaptu ŝancon forkuri!

Provincano: Mi esperas, ke jam la statuo estas preta. Mi iru senhaste.

Metiisto: Ho, Provincano, bonvenon!

Provincano: Bonan tagon! Ĉu jam preta?

Metiisto: Jes, la statuo estas preta. Tie en pajla mato. Volu iri kaj vidi. (ŝteliras kaj surmetas maskon de Ksitigarbo)

Provincano: Do mi iros kaj vidos... Ho, kvankam ĝustas la grandeco, la manoj tamen ne estas bonaj. Mi petu reformi ilin. Hej, Majstro!(reiras)

M: Momenton!(demetas maskon kuras)

Provincano: Kvankam ĝustas la grandeco, la manoj de la statuo tamen ne plaĉas al mi. Mi petus reformi ilin.

Metiisto: Nenia problemo! Antaŭ ol gluo malmoliĝos, mi povos reformi...(nekaŝe iras k revenas) Volu iri kaj vidi!(kuras)

Provincano: (iras)Hej, Majstro! (reiras)

Metiisto: Momenton!(kuras)

Provincano: Ĝi kvazaŭ almozpetas. Volu reformi ankoraŭfoje.

Metiisto: Mi komprenis vin... (iras kaj reiras) Volu iri kaj vidi.(kuras)

Provincano: (iras) Ankoraŭ malbonaj! Majstro!(reiras) ili ne plaĉas al mi!

Metiisto: (kuras)Mi komprenis vin...(iras kaj reiras) Volu iri kaj vidi.(kuras)

Provincano: Ankoraŭ malbonaj! Mi vidas! Mi estis trompita de la metiisto kun masko. Majstro! (reiras) Ili ne plaĉas al mi! Tuj venu kaj reformu ĝin. (kuras)

Metiisto: Mi komprenis vin. (iras kaj revenas) Volu iri kaj vidi.(kuras. flanke surmetas la maskon)

Provincano: Vi estas la metiisto! Kia kanajlo! Mi ne pardonos vin!

※ kenno: japana longunuo, ĉ. 1,818 metroj.

※ Kioto: japana malnova ĉefurbo.

※ **Unkei**(?-1123), **Tankei**(1173-1256) kaj **Annami**: skulptistoj de sama skolo en la epoko Kamakura. *Tankei* estas filo de *Unkei*; *Annami* (*Kaikei*) estas disĉiplo de la patro de *Unkei*.

月/日 会場	輪読・会話 <i>Legi, Traduki kaj Babili en Esperanto</i> "La Aventuroj de Ŝerloko Holmsó"	出席者
2016年公民館3階C 10月15日(土)10時	岩田好兼、高鶴弘夫、島谷剛、的場祐子。	 4
10月29日(土)10時	岩田好兼、高鶴弘夫、島谷剛、的場祐子。	 4
2階会議室B 11月12日(土)10時	岩田好兼、高鶴弘夫、島谷剛、的場祐子。	 4
3階会議室C 11月26日(土)10時	第九話 "La Dikfingro de la Inĝeniero" 153 ページ 15 行目 Estis somero 1889, ne longe post mia edziĝo から。	 ?

例会予定 2016年 11月(5)、12日2階会議室B、(19)、26日(冬の季語で俳句)、
12月3日B、11日2階会議室A(日曜午後ザメンホフ祭)、17日。
2017年 1月(7)、14日、(21)、28日、2月4日B、(11)、18日、25日(春の季語で俳句)、
3月4日B、(11)、(18)、25日。



会場は池田市立中央公民館3階会議室C。第2・第4土曜日10時～12時。

*は会場未定。北・南は池田駅前北会館・南会館。(日付)はお休みです。



行事予定

2016年 11月3日～6日(木～日)池田文化DAY。アジア大会(中国)

11月19日(土)KLEG委員会。

12月11日(土)ザメンホフ祭13時2階会議室A

12月17日(土)LaMovado 発送枚方池田。

2017年 1月21日(土)KLEG委員会 3月9日(木)ふれあい作品展搬入9時半～15時。

3月10日～12日(金土日)ふれあい作品展 3月18日(土)KLEG委員会

4月15日(土)KLEG委員会

7月22日～29日(土～土)第102回世界エスプラント大会(韓国・ソウル)

